年中無休刊（日曜日翌日休刊） 大正七年十月六日 THE KEIJO NIPPO （明治三十九年九月十八日第三種郵便物認可） 第三千九百六十四號 （一）

# 京城日報

本紙定價 壹ケ月七拾五錢 ▲郵税 ▲六ケ月前金 ▲壹ケ年前金
廣告料金 五號十五字詰一行 一圓五拾錢
發行兼編輯人 奧田直毅
印刷人 小川三之介
發行所 京城太平通一丁目 合資會社京城日報社
電話

[illegible]

十月五日夕刊（朝夕併せて八頁）

黒龍州方面戰報

## △我軍勇進敵潰走
### 猛虎群羊を驅るが如し
住民白旗を掲げて我軍を迎ふ

【東京】四日陸軍省公表＝（一）第十二師團の山田枝隊と策應してゼーヤ河を遡航中なりし同枝隊の掃河艦隊（少佐堀八郎指揮）は九月二十八日正午タンブーキ上流二哩半の地點に於て軍需品を積載せる一敵汽船を追撃し直に是を捕獲せり（二）ニコライツイフウスキー（タンブーキの西方約十三里）西方に於ける八箇所の金鑛には何れも敵影なし。ソカライ金鑛に在りし敵は我軍の到着と共に該金鑛を撤退しダンブーキ附近に逃走せり尚九月二十七日午後山田枝隊の歩兵中隊（中隊長大尉石川修爾）同地進入の際は敵の隻影無く住民は白旗を掲げて好意を表し我を歡迎したり（三）アレキセフスク附近に於て我軍の手に收めたる俘虜及び鹵獲品中重なるもの左の如し（東京特電）

俘虜獨墺國人四名、露國人二百十四名支那人一名▲鹵獲品砲二十三門、機關銃二十九挺、追擊砲四門、小銃六千八十一挺、手擲彈一千三百發、探照燈並に最新式飛行機各一臺、汽船九隻、團平船七隻、自動車十六臺、機關車二輛、客車三百十一輛、其他測量器、通信器材被服等

## △汽船砲艦鹵獲
過激派金塊を強奪し豪遊

十八日敵の根據地アレキセーフスクの戰鬪に於て我軍は二十一名の死傷者を出したるもゼーヤ河にて敵の汽船砲艦七隻を鹵獲したり在留邦人の談に據れば當時過激派はブラゴエ及び齊多の銀行より金塊を強奪し山の如き紙幣を所持し到る處に於て豪遊を極めつつゼーヤ河上流に逃走せりと（ブラゴエ發本社從軍記者特電）

## ◇合衆國組織意見
―大井師團長ア氏會見―

大井第十二師團長は九月廿六日黒龍政府の代表者アレキセーフスキー氏をア市々長として會見し今回の日本出兵の意義を語り同時にア氏の政見を聽きたるにア氏は『黒龍州を完全に獨立せしめたる上西伯利各獨立州を合して米國の如き鞏固なる合衆國を組織し度し』と語れり因にア氏は曾て露政府反對の新聞を發行し居たる事あり黒龍州の中心人物なり（ブラゴエ發本社從軍記者特電）

## ◇英陸軍大隊着哈

英軍歩兵一個大隊は日露支官民多數及び支那チェック兩軍隊の盛大なる歡迎を受け二日午後五時浦鹽より哈爾賓に到着直に停車場前にて閲兵式を行ひ尚翌三日市中行軍を行ひたり（哈爾賓特電）

## ◇露交通部長等輸送狀況視察

露國交通部長大佐フセウオロシスキー氏同補佐官トロストクラコフ氏東清鐵道東部線營業部長オイトフ氏同南部保線營業部長ハチンスキー氏哈爾賓同機關庫長ズワトブスキー氏等の一行は三日朝〇〇輸送狀況視察の爲め寛城子に來り四日夜哈爾賓に歸還せり（長春特電）

## ◇獨墺軍衰滅の兆
獨軍西部戰線にて擊退さる

最近一週間中に於て聯合軍の獲たる捕虜總數は十一萬五百人にして目下ヴエルダンより海岸に至る西部戰線にては大激戰續行中にて獨軍は著々後方に擊退されつゝあるが獨逸が斯の如く正面に於て退却を爲すは開戰以來未曾有の事にして獨逸及び其の同盟國敗戰の兆漸く現はれ來れり（巴里電報）

## ◇奉天軍蚌埠駐在

李純氏に阻止されたる奉天軍は蚌埠に駐在する事となり其隊長は二日急遽來京段總理及び徐樹錚氏と密談の上彈藥四百餘箱を携帶し蚌埠に引返せり（北京特電）

## ◇安徽督軍後任

九月廿六日倪嗣沖氏は自己の後任として徐樹錚氏を安徽督軍に推薦し來れり（北京特電）

## ◇原首相新任披露
貴衆兩院代表者を招待

原首相は四日正午永田町官邸に徳川黒田貴族院正副議長並に各派交渉委員柳田書記官長其他約卅名を招待し新任披露宴を催したるが原を拜受し局に當りたる以上は全力を竭し上 聖明に答へ奉り下國民の寄託に背かざらんことを努むる決心であります、只今日の時局は頗る重大にして如何に萬全を期するこ雖も十分の効果を收め得べきや否や此點に就きましては竊に痛心の至りに堪へませぬ、故に諸君の深厚なる御助力を熱望して止まざる次第であります。斯かる趣旨に依り御繁用の折にも拘はらず本日御來臨を仰ぎ腹藏なく御高說を承り且つ今後更に一層の御懇親を忝うせんことを希望する次第であります

右に對し徳川議長は一同を代表して謝辭を述べ午後二時散會せり（東京特電）

## □御大禮記錄
### 親しく天覽

御大禮記錄は九月二十五日完成陛下に獻上せしが 陛下には四日午前十一時東三の間に於て親しく 天覽あらせられ下條内閣書記官說明申上げ奉りたり尚同記錄書記に至る迄酒肴料御下賜あらせられたり（東京特電）

△原首相は四日午後五時衆議院大岡、濱田正副議長以下同院各派代表者を官邸に招待し新任披露晩餐會を開きたるが各大臣列席席上首相の挨拶に對し大岡議長の答辭あり七時散會せり（東京特電）

## ◇野田遞相參内

野田遞相は四日午前九時敍位御禮の爲め參内せり（東京特電）

## ◇兼任秘書官

四日左の通り辭令ありたり（東京特電）

司法大臣秘書官 原 夫次郎
兼任總理大臣秘書官

## ◇鐵道理事任命

四日左の通り辭令ありたり（東京特電）

鐵道院參事 永井 亨
同 參事 中川 正左
同 參事 村井 二郎吉
任鐵道院理事（二等）

## ◇林公使歸任延期
對支方針未確定の爲

林公使は十日頃歸任の筈なりしも新内閣の對支方針未確定の爲め右確定迄歸任延期せりと（東京特電）

## ◇佐藤總領事

哈爾賓駐在佐藤總領事は四日朝來長同日正午吉林に向へり（長春特電）

## ◎勃牙利王退位
親獨派ノ敗北

外電に據れば勃牙利王フエルヂナンドは退位して墺國維納に到れりとあり其筋には未だ情報なきも既に聯合國側との休戰條約議定に關する無條件調印の了せられたる今日獨逸出身のフエルヂナンド王が其の地位を保つ能はざる可きは推測に難からず王親らの退位なりとせば獨逸に對し責任の輕からざるを感じたるの結果なる可く又他より強要せられたる退位なりとせば勃國内親獨派の敗北を意味するものなる可し兎も角注目す可き報道にして獨逸側の鐵壓策効を奏して勃牙利の復活を見るか其れとも聯合國側の利用策効を奏して實際の休戰にまで至るかは全戰局の上に重大なる關係ありとして一般に注目せらる（東京）

## ◎總督歸京

長谷川總督は金剛山方面視察中の處五日午後六時五十分南大門驛着列車にて大島副官神田秘書官澤田第一課長及び猪原朝鮮ホテル支配人等を隨へて歸京せり

## ◎總監代議士招待

山縣政務總監は五日午後七時朝鮮ホテルに目下入京中の代議士神谷卓男、同牧山耕藏の兩氏を招待し晩餐會を催すべし

## ◎僧侶團恤兵寄附

曩に京城府諸松洞朝鮮寺刹百七寺總代並に同僧侶三百四十五人總代三十大本山聯合會名を以て金一百圓を海軍恤兵の主意を以て寄附したる所此程海軍省より聞き屆くべき旨指令ありたり

## ◎金融組合概況

八月末日現在全鮮金融組合業務概況を聞くに組合數二百六十組合員數十二萬八千五百六十五人にして運轉資本金は拂込濟出資金五十五萬八百五十圓基本金二百五十九萬五千圓積立金八十一萬二千九十三圓借入金補助貸流通資金預入受額を含む八十一萬四千八圓預り金九十三萬三千六百六十八圓委託販賣金及共同購入前受金二千百三十九圓に達せるが之が運轉の狀況は貸付金四百三十四萬三千七百六十三圓所有物五十二萬五千卅五圓預け金及び現金八十六萬三千八百一圓にして其の他農工銀行代理及び媒介貸付金百三十五萬二千六百五十八圓を存せり之を前月末現在に比すれば組合員數に於て三百六十六人拂込濟出資金に於て六千九百六十六圓同取次預金一萬四千四百十六圓借入金に於て四萬五千二百九十圓預り金に於て四萬九千四百二十六圓委託販賣金及び共同購入前受金に於て千八百圓貸付金に於て十萬四千二百圓所有物に於て千八百三十四圓農工銀行代理及び媒介貸付金に於て九百五十八圓を增し委託販賣前渡金及共同購入金に於て八百六十一圓預け金及び現金に於て千六十八圓を減ぜり

## ◎日支聯合賃金增徵

滿鐵にては十月一日より當分の間日支聯絡旅客の片途往復團體周遊及び手荷物に對し所定賃金の外增徵及び低減額表の十倍の賃金を徵收する事となりたりと

## ◎鮮銀株と京城

朝鮮銀行新株の募入は五日朝刊掲載の如く決定せしが京城本店取扱ひの募入は百四十四圓の申込分二口三十株に付問題とならず百四十四圓五十錢以上は三百八十株に過ぎざる由

## ◎仁川新甫波瀾

休會中なりし仁川米豆取引所にては四日後場より立會を開始したるが寄付二十九圓丁度と實に三十日後場比の二十五圓九十四錢に比し三圓零六錢の奔騰を示したるが安値は二十八圓八錢に落ちたり更に五日前場の出來值は大阪暴落の報を入れて寄付二十七圓十錢と急落二節二十七圓十錢と小戻したるも三節廿六圓八十錢止め廿六圓九十四錢なりき尚は五日大阪期米の暴落は天候の佳良に内地米作減收の材料として既に賣り盡されし等の關係上急騰の影響は暴落を來せしものの如く唯引際に至つて大阪引戻しの入電ありこの事にて前途如何なる相場を出すべきか兎に角波瀾の滑廻は免れ難からん

## ◎朝紡の工場敷地
### 位置は漢江對岸
某有力者談

朝鮮紡織會社々長馬越恭平氏は同社工場の敷地決定を主要の用向として約十日間京城に滯在し四日夜奉天に向ひたるが氏の滯京中

▲朝鮮紡織 工場の敷地が決定したるや否やに付在京城の有力者にして朝鮮紡織に關係深く且つ馬越氏の滯京中行動を共にしたる某氏は曰く朝紡工場敷地は馬越氏の來鮮前二三箇所の候補地を選みありしに付同氏は親しく候補地の見分をなし更に諸種の調査を行なひたる所該豫定敷地は秋冬の候は可なれども夏時の降雨期に會すれば出水のため到底工場敷地として適當と云ふべからず先づ當初の豫定地は不合格となりたりと稱して可なり故にその後二箇所の敷地を選みたるが馬越氏は遂に該

▲敷地を檢分するに至らず京城の關係者に一任北行し更に來る十日頃京城通過歸東すべしに從つて同氏今回の來鮮にて朝紡工場の確定を見たりとは云ひ難き譯なるが要するにその敷地を京城附近に選むべき事は社長入京の際の談にも見はし如く動かすべからざる事實なるべく問題はその位置の如何にある譯なり尤も位置と稱するも之を京城附近に物色すれば工場用水の利便と電動力を得ると運送の便宜を得る上に於て漢江沿岸ならざるべからざる事は自明の理なり然もその

▲漢江對岸 に適當の候補地を見出すに苦しみつゝある譯なるが何れにせよ遠からず決定すべきか

## ◎活氣横溢せる滿洲
聯合會議事經過良好

九月二十五日より三日間大連に於て開催せる第一回鮮滿商業會議所聯合會に臨み滿洲方面の觀察を了つて三日夜歸京せる京城商業會議所大村書記長の談によれば『大連に於ける鮮滿商業會議所聯合會の議事經過は

▲至つて良好にして議案の殆んど全部を可決するを得たり只だ一案營口會議所の提出に係る特定運賃を設けて滿洲貨物の一部を營口に運び以て大連に於ける滯貨の甚だしきを防遏せんとする議案は單に營口の發展策を念とせる地方問題の臭味を帶び大局に關聯する所尠く重大問題に非ざるを理由として遂に否決宿題となすこととなれり今期會議所聯合會に於ける滿洲會議所側提案の中直接朝鮮に關係あるもの少かりしも滿延電信敷設に關する議案の如き間接に朝鮮に關係を有するものは少しとせず要するに第一回鮮滿商業會議所聯合會は延いて鮮滿商工業の

▲聯絡提携を 誘致すべく極めて有意義のものたりしなり第二回の聯合會は來年秋季我が京城に於て開催の事に協定成立したるが其の議題とすべき鮮滿間の問題の如き兩地方に於ける商工業發展上大いに研究を要すべきものあらん昨今大連の發展は實に目覺ましく其の市區の端正規模の宏大は敢て驚くに足らずと雖も其の都市の雄大にして著々進展の實を示せるが如き人氣頗る活潑横溢せるが如き內地人々口僅かに五萬內外に過ぎざるに拘はらず我京城の如き到底企圖し得べくも非ず由來大連は彼の廣漠なる滿蒙の

▲貨物を吞吐 する唯一の要港にして其の貨物の種類或は數量の多大なる目下大連埠頭に於ける滯貨を以てするも略推察するに難からず大連に於ける目今の滯貨は實に山積し全鮮の滯貨數量よりも多量に上るべく其の盛況は驚く人をして既に滿洲地方は馬車時代を經過し自動車時代に入り其の繁榮は面目を改むるものあるに引換へ遼河口に於ける營口の衰微は亦大勢の然らしむる處とや言はん遼河の浚渫能く大艇を航行せしむるものなくんば營口の繁榮は得て期すべからず奉天の發展も亦一驚を喫す目下煉瓦二層三層樓の新築工事進捗中のもの凡そ七八十軒何れも我が鮮銀級の建築物にして其の規模宏壯なるものあり目下の市況にして今數年を保持するを得ば

▲奉天の如き 蓋し大市街の建設を完了するを得べし滿鐵の後援と建築條例及び信託業の發展とは能く斯くの如く大市街の計畫を易々たらしめたるものと謂ふべし然りと雖も我帝國の勢力は既に遠く滿蒙奧地に侵潤し已に滿蒙の死命を握り吉會線の敷設亦近きにあらんとす而して鐵道は黒龍江の砂金地帶をも我商勢力圈内に包含したる曉は最早奉天の如きは之を飛び越え滿蒙に於ける唯一の策源地は哈爾賓を以て其の首位に置くべきものたるべし

## ◎應召者宛郵便物

一般より應召軍人に宛つる郵便は該應召軍人が出征せるものと然らざるものとあるを以て出征者と留守隊所屬宛とを間違へる時は甚だしく遲着する事あるに付此點注意を要すべし

## ◎湖西銀行新支店

株式會社湖西銀行に對し十月二日忠南天安郡天安に支店設置の件許可されたり

## ◎加藤少將出發

四日朝入京せる加藤海軍少將は五日夜南大門發列車にて內地に向ふべし

## ◎白國公使出發

滯在中の北京駐在白耳義公使は五日午前九時五十分南大門驛發北京に向ひたるが久水外事課長其他の見送りありたり

## ◎國分長官出發期

國分司法部長官は既報の如く黒岩國分課長を隨へて七日午前九時五十分南大門驛發列車にて支那視察の途に上るべく安東縣に直行二泊の上八日夜京城を發すべき荻田總務局長と同行奉天に赴き三泊、鄭家屯一泊、長春より哈爾賓に赴き再び長春に引返して吉林を視察し撫順、遼陽より大連、旅順に出で荻田局長と別れ營口、北京、天津、濟南、青島を經て更に大連に出で來月二十三四日頃歸任すべく往復約五十日の豫定なりと

## ◎荻田局長出發期

荻田總務局長は八日午後九時四十分南大門驛發列車にて南北滿洲視察の途に就くべく九日安東縣に於て國分司法部長官と同行奉天哈爾賓吉林遼陽撫順等視察の上旅順大連を視察し來月初旬歸任の豫定なり

## ◎上林道長官入京

咸北道長官上林敬次郎氏は五日夜入京山本旅館へ投宿の筈

## ◎久保醫學博士

滯京中の久保醫學博士は五日朝出發金剛山に向ふ

## ◎鮮銀總裁東上期

美濃部鮮銀總裁は七日午後七時五十分南大門驛發列車にて出發東上す

## ◎今關囑託退職

總督府囑託今關壽麿氏は豫て辭表提出中の處五日附依願解任の辭令ありたると六日夜家族同伴退京一旦下關に赴き直ちに引返す豫ての素志たる支那漫遊の途に就くべしと

## ◎今關氏へ記念品

總督府囑託今關壽麿氏退職に就き總督府久芳、工藤、遠藤の各課長發起となり記念品贈呈の擧あり賛成の向は前記三氏宛申込まるべしと

## ◎廣江澤次郎氏上阪

貿易業廣江澤次郎氏は今回大阪市オフセット會社取締役に就任同社の對支方面の業務を擔當する事となり結果主として大阪に留まるべく六日午前八時四十分南大門驛發列車にて上阪する由なるが今後大阪南支那方面を往來して將來對支事業經營の基礎を築くべく京城には農場植林事業等の關係あり時々來鮮の豫定なり尚ほ家族は當地に留まる由

## ◎軍事郵便記事訂正

四日夕刊に記載したる出征者に對する郵便は無料の軍事郵便にて可なれど云々と記せしは出征者より發する郵便は無料の軍事郵便にて可なれどの誤まりに付訂正す

### 人事消息

▲賀田金三郎（東京實業家） 五日午前釜山上同日午後十時半發北行
▲稻垣總督府醫院長 五日朝下仁
▲柳瀬軍之佑氏（代議士） 五日京城通過元山へ
▲福井學事視察團一行十名 五日午後六時二十五分元山より入京原金旅館に投宿せるが一行は六日市內觀察の上同午後九時四十分平壤に向け出發すべし
▲村田總督府殖産務課長 保留金山試掘狀況視察の爲め咸南新興へ出張を命ぜられ四日朝出發
▲武村茂氏（大倉組重役） 五日朝入京大
▲安川東拓大連店長 七日出發の筈なりしも都合に依り六日午前九時五十分南大門驛發列車にて出發赴任の筈

### 茶前酒後

◆獨軍烏拉爾に迫ると報ぜらる。西部チエック總司令シロダイ將軍は、嚢に東部チエック總司令ガイダ將軍に書を寄せて、歐露チエック軍の危險を訴へ、頻に援助を乞ひ、聯軍速かに來り救ふに非ずんば、チエック軍は遂に歐露より撤退し、烏拉爾迄退却の止むなきに至らんと報ぜり。然れども聯合軍の進出援助は、更に考慮を要するものありて、忽所に決する能はざるの理由あり、從つて速かに援に應ずる能はざりしが、獨軍烏拉爾に迫るとの飛報は、蓋しチエック軍が遂に其の腰迫に堪へず、烏拉爾迄退却せるを、意味するに非ざるなきか。

◆遮莫皇帝長驅、既に後貝加爾湖に達し、ウエルフネウヂンスクを占領す。同所は東西西伯利唯一の要地也。遂に劍を磨して珍客の來るを待つ、獨軍の南下は、寧ろ我の爲には好敵手たり、獨軍果して長驅南下するや否や。

◆屢々辭意を傳へし獨逸宰相ヘルトリングは、遂に獨帝の聽許を得て、掛冠せりと報ぜらる。ヘルトリング內閣の動搖は、從來屢々傳へられたる處なるが、獨逸最近の窮狀は、內閣に失政無しとするも、更迭政策によりて、國內の動搖を防止するの止むなき形勢なると共に、最近墺國に內通して、聲明なさしめたる講和提議も、見事に失敗し、對勃外交は更に大失態に終りたるが、即ち內閣の動搖を早めたる、一大近因たるやの觀あり。後繼內閣に就ては、主戰派か、講和派か、其何れの勝利に歸するかは、大戰々局上にも多大の關係を及ぼすべく、多大の注目に値すべし。

◆輿望を一身に集めたる米大統領ウイルソン君は、上院に於て婦人參政權附與賛成につき、滔々と懸河の雄辯を振ひ、大喝采を得たり。而して其の決議に入るや、忽ち否決さる。ヤンキーガール連は躍起とならんも、米國政治家中には、冷靜なる頭腦の所有者多し、即ち之れ米國の偉なる處也。

悼日池亡妻 坡柳

○本願寺にて 肩衣かけて並ぶ兒ら櫻もみづる 不孝郎
○まひるの門さして鷄頭に眼おます 烏堂
○赤いダリアが今年も私の目に殘つ


# 女子の福音
## 容易に料理が覺えられて 禮法と裁縫も覺えられる
■主人の笑顔に主婦の手加減一つ■
■一家團欒舌鼓打つは和樂の基■

女子に最も必要なるは、料理に通じて、日々の食事を美味に、安價に、滋養あらしむると共に、禮儀作法に通じ、又裁縫の技に熟達して婦人の道に缺くる處無き樣に努むるにあり。主婦が此の三つの道に通ずれば、其の家庭は常に平和にして、和氣家に滿つべし。然らば如何にせば最も容易に此の三つの道に通じ得るやと云ふに

■板垣伯夫人 は此の點に留意し、婦人の幸福を增進せんとして、夙に東京割烹講習會を設立し、同會より家庭料理講義錄を發行し、斯界の各專門大家をして料理と、禮儀作法と裁縫とを講義せしめ、これを每月會員に配送しつゝあれば、同會の會員となれば居ながらにして最も容易に此の三つの道に通ずるを得べし。今左に同講義錄の內容の大略を紹介せん。

◆日本料理科 には▲儀式料理▲會席料理▲本膳部料理▲日々の献立▲精進料理▲部屋料理▲家庭料理▲病人料理等、日本料理一切を講義し

◆西洋料理科 には▲歐米各國の料理▲一品料理▲和洋折衷料理等西洋料理に關する一切を講義し

◆支那料理科 には支那料理一切を詳細に講義し

◆和洋菓子科 には日本及歐米支那の菓子製法を講義し

■禮儀作法科 には▲日本禮儀作法▲歐米禮儀作法▲日本食禮法▲婚禮式法▲西洋食卓法等和洋禮式一切を講義し

■和洋裁縫科 には和洋裁縫の手解きより祕所祕訣に至るまで講義す。

■實益と趣味 其他▲年中行事▲漬物▲刺物▲組物▲老人、小兒、病人の食物▲通俗化學▲美容▲名士の講話等、毎號掲載しあれば、眞に實益と趣味とを兼ねたる婦人必讀の講義錄にして、これを保存すれば、家庭の寶典、婦人一生の相談相手たるべし。

■入會の好機 同會は目下新學期開始、會員大募集中なれば、今が入會の好機なり。入會手續は簡單にて、ハガキに「講義錄送れ」と書いて申込めば、直に會員として講義錄を送る。會費は一ケ月分金四拾錢。三ケ月分金壹圓拾五錢。六ケ月分金貳圓貳拾錢。壹ケ年分金四圓貳拾錢なり。

■送金の便法 會費は前納すれば結構なるも、若し會費送金を面倒と思ふ方に對しては、集金郵便の便法あり。この便法は入會を申込めば講義錄を直に一冊送り、同時に二ケ月分の會費（集金手數料共八拾五錢）を其の地の郵便局の手を經て集金し、次號は翌月送本し其れからは二ケ月目毎に二ケ月分宛の會費を集金に行く故、送金上何の手數も無し。

■大特典有り 此際の入會者に限り、入會金を免除し、料理必携を進呈し、尚ほ六ケ月分の會費前納者には家庭寶典を呈し、壹ケ年分の會費前納者には「最新パン製造法」及「記念カルタ」を進呈する外、本會出版の圖書を永久に三割引にて購讀する特權及本會附屬の割烹學校にて一ケ月間無月謝聽講生たるの特權を與ふ。

■見本進呈 內容見本入用の方へは無代進呈す。

東京本郷御茶の水 株式會社 東京割烹講習會 振替口座東京壹九四貳〇番 電話小石川 二六四二番

## 最新パン製造法 定價六十錢 送料六錢

パンが衛生的滋養食品たる何人も認むる所。本書は多年海外にて研究せる斯界の大家田邊玄平先生が特に本會の爲に執筆せられたるものにて、田尻博士及諸大家の推賞を受けし名著也。▲小形食パン▲菓子パン▲窯燒パン▲蒸パン▲玄米パン▲白パン▲膨脹パン等有ゆるパンの製法を親切に詳述しあれば本書を一讀せば何人も各種パンを製造し得べく、營業者は固より一般家庭の患者等にも缺くべからざるもの也。出版以來好評嘖々

◆乾燥パン種 一袋（七個入）定價金參拾錢 送料內地貳錢。領土三拾錢 ◆註文者に限り實驗用として十五斤分のパン種進呈

◆玄米粉入パン種 一袋（送料共）金拾七錢 この玄米粉入パン種を使用すれば、誰でもパンが僅々十五分間で誰にでも出來て此れ以上の簡便法は有りませぬ。

東京本郷御茶の水 東京割烹講習會（振替口座東京一九四二〇番 電話小石川 二六四二番）


大正七年七月一日發行

# 西伯利従軍記

## ▽敵影を追うて（二）

### 夜に日を繼ぐ鐵道隊の活動

身を切るやうな寒空に裸體で流れに飛込んで働く兵士もある

橋を架けては敵を追覓ける

從軍記者 金谷眞

黒龍州の中央ブレーヤ河の東方に自分の汽車は停まつて居る、洗面の爲めに四五町の小川まで出かけて行くと遠い白樺の森から日が昇る、附近は一望海の如き黄色の野原、點々秣を積み重ねた平野の眺めは内地の大演習氣分を偲ばせる、渡向ふの方に人家の屋根らしいのが見ゐるのはドミカン附近の村落であらう、由來ブレーヤ河とゼーヤ河との中間は黒龍州中豐沃の地として知られて居る、黄色の畑は燕麥や小麥の收穫された跡であらう」洗面の小川は相も變らず過激派に破壞せられた鐵橋があつた、見れば

▽兩岸の石の 橋礎はそのまゝで その間の橋桁三個も無事である、唯だ枕木が燒け落ちて赤錆の軌條が綱のやうにぶら下つて居る『烏蘇里線では橋臺まで爆破して北げたが此の附近では枕木を燒いて居る、敵も爆藥が徹底こ見ゐますね』と鐵道隊の曹長殿が語つた、と見ればエンヤラサ〜!!!で一隊の兵士がトロツコを列車から降ろして居る」それを軌條に並べたかと思ふとモウ材料の運搬をはじめた、件の工兵は破壞された鐵橋の傍に新しい木橋を架設しようとするのである、他にはまたショベルを持つて道を作る一隊

▽鋸を持つて 木材を挽切る一隊

仕事はバタ〜バタ〜捗取つて行く『なるべく早く通じたいがどうせ今夜中かゝりませう』と第一鐵道隊長淺野工兵少佐は云ふ『皆んな確かりやつてくれ』と渡邊大尉が激勵する、兵隊さんはヤツサ〜の大汗である、支援の北方歩兵隊も大意氣込である、その中に黒龍州の平野を敵ふ大時雨が來た、雨は遠慮なくザア〜ザア〜!!!作業の兵士に降りかかる、『アラゴエミアレキセーフスカヤの敵の奴』今に此の橋を架けて追かけてやるぞ!!!』と兵隊さんは大車輪である、黎明になつて橋はやう〜竣工した、其の夜自分は列車のある野原から遠いドミカン驛まで往復した

▽廣い野原の 軌道を頼りに濛々たる雨中を歩く心もち!!!烏渡西伯利の漂泊者氣分といふやうなものを考へて見た、遂に明けて二十日の朝となつた、窓には黒龍州の風が咆哮してゐる、洗列車は愈前進を始めた、後の方には長い列車が五六輛續いてゐる自分の軍用列車が假橋を通過すると共に後の列車も續々通る、間もなくブレーヤ河の大鐵橋に差しかゝつた、三百三間河畔には白樺の林がくれに村落が見ゐる、列車はまたブレーヤ驛の西方で停まつた此の夜鐵道隊は到着のまゝ息をもつかずまた破壞された古鐵橋の修理工事を始めた、兵士は此の

▽寒空に裸體 の儘で流れに飛び込んで働いてゐる、列車内で敵の根據地アレキセーフスカヤが我が騎兵の爲めに占領されたといふ勝報を得た『ボチカレオまではまだ五六箇處の橋がある、早くやれ!!!く〜!!!』と鐵道隊はまた勇み立つ何たる彼等の健氣さであらう、顧みれば烏蘇里線以來架けては追つかけ架けては追つかけ夜に日を次いだ鐵道隊の大努力!!!その辛酸は到底目擊者以外には想像も及ばぬとである、自分は今年の六月滿洲里附近マツエフスカヤの戰線に立つて鐵道戰術の如何なるものかを實見して來た一人である、今沿黑の戰爭が如何にして行はれるかゝよく解る、これからの戰爭は鐵道の利用が重視されるであらう、從つて鐵道隊が働かなければならぬ（九月廿日ブレヤ驛にて）

櫻井小學校の運動會

## ▽三味線に 記念の樂書

彼は大膽過ぎる位落著いて居た

二十四日の夜九時頃でしたろ平壤の或會社の方と御一緒に見えた客

## ◎平氣な顏で木遣節

### ▽＝平壤大同館の『縮屋殺し』 忠信は女優上りに化けて居た

繭商殺しの犯人都野川義雄は大膽にも情夫忠信と共に平壤に入込み自分は[illegible]旅館に忠信は停車場前[illegible]旅館に泊まらせ二十四、五兩日は市中を徘徊し知己某を訪れたる上料亭大同館に登樓豪遊を極め込みたるが當時都野川の座敷に侍りし同館藝妓扇太郎は曰く

があるのです身には仕立卸しの縮の半ちお召に同じ羽織を着流して相當の風采でした最初お濱姐さんと繋子さんとが上がりましたがそれから少し遲れて妾もお花に出ました、普通の挨拶して隨分酒も飲みましたが其客と云ふのは餘り話はせず只小粹な端唄なんかを盛んに歌ひました『木遣節』と

▲『木曾の御嶽』が取分けて上手でしたが眞逆この人が恐ろしい大罪人であらうとは夢にも思ひませんでした、ですから 妾も普通のお客様として待遇してゐましたが其中に平壤の方が張替て買つて未だ間の無い妾の三味線に『何か書いてやらう』と言つて『失戀の女』と云ふとお書きになりましたら最う一人の方(都野川)も『俺れも記念に書いてやらう』と云つて筆跡も美事に

▲『石楠居士』と 書いて下さいまし、妾はそれから十二時過ぎ急用が出來た爲め其座敷を外しましたが何くして歸つて見ますと其客は所謂醉眼朦朧鼻唄に口三味線か何かでヒヨロ〜しながら引揚る處でした今から思ふと人を殺して大金を盜つた人にしては餘り大膽過ぎた擧動で只最う開いた口が塞がりません、二十五日は恰度齋藤酒造會社の宴會で二階の大廣間は七八十人のお客で大賑ひでしたが其

▲賑ひの眞最中 仲居さんが妾を聘らしに來ましたから『何誰?』と聞きますと『昨晚のお客よ女優揚がりとかを連れて來てお前さんを名指したの』この事を妾はお濱さんと二人其客の居る奥座敷へ參りますと其男は『姐さん今晚は…何うか酒を飲むか』と申しました『否最う今晚は此上飲めませんそれより旦那にウンと飲ましますよ』と妾が戲談を申しますと男は『イヤ俺は御免だ』と笑つて居ましたそれから連れの女を指して『此女は今は俺の女房だ』と紹介しましたが女のもの言ひや動作や人前で遠慮なく意茶付く所など全く女優か

▲東京で女優 をして居つたか何かの上がりらしくもあり、妾達は奥樣々々と奉て居りましたが今思へば何が奥樣だと莫迦々々しくて自然にふき出し度くなります、其晚も男は矢張り平氣の平左で『木遣節』を歌つてました

### △鮮かな 舞の手 その夜の忠信

又忠信と云ふ女は江戸辯で『宅は〜』を連發しツベコベと宜く喋舌る女でした、其中に其女は『妾も何か演りませう』と言つて越後獅子と深川とを踊りましたが中々鮮やかなものでした、斯うして其夜も大分酩酊して二人手に手を取つて自樓（大同館）を出ましたのは最う十二時過ぎでしたらう、二晩でドノ位費つたかそれは確か知りませんが

▲精々三十圓 位のものでせう是ぢや豪遊と云ふ程でもありませんはね……彼の時にそんな極惡人と知つたなら何とか方法もあつたでせうに、今更何と云つても後の祭りですが思へば口惜しくてなりません（平壤）

## ◎西伯利戰は 大きな兎狩

### 逃げて行くから追擊する中何時の間にか 哈府を占領 ＝岩下參謀談＝

前沿黑派遣艦隊司令官加藤寛治少將は其筋の命令に依る視察を終へ鐵路歸東の途次大尉を随へ四日午前入京せるが岩下大尉は少將に代りて語つて曰く 閣下は後任河原少將の來著を待つて事務の引繼を了し九月十九日沿黑出發其筋の命に依つてハバロスク其他の戰地視察に向つたのです浦鹽を立つ前に

★大洪水が あつたので交通の不便この上なく豫定以上の日子を要しました、ハバロフスクには我軍が同地を占領せる時捕獲した砲艦その他多數の海軍所屬の物品が多いので其保護の爲め砲艦から海軍を派遣したのですが是は永くこの任務についてゐる事が出來ないため内地から新たに派兵する事になつて居ります、此處ではコサツクの司令官であつた

★カルミコフ に閣下と共に逢ひましたがなか〜の元氣者で非常に我軍に好意を持て居ります、この度の旅行中ハルピンまでは多少戰爭氣分が漲つてゐるやうですが奉天から此方は更に戰時氣分を味ふ事が出來ません、今度の戰爭は戰爭と云ふより寧ろ兎狩りの大きなものだと云ふ方が適當でせう、沿黑の近狀ですが、西伯利政府などは出來ても何の權威もなく相變らず

★亂脈の樣 な有樣です私達が居る間に米國の大使もやつて來たが、今では戰爭は第二で外交が第一になつて居るやうです、過激派の兵は初め日本の出兵を信ぜずチエツク兵が日本兵に化けてるとか思つて居た相です、我十二師團はスパスコエに軍隊を集中して進擊する豫定だつたのですが右の次第で

★過激派の 進擊が激しかつた爲め騎兵隊は何時も退却々々と取續け我軍も止むなく退却を第一子ら豫定より早く進擊を初めたのです、チエツクの戰況位に思つて居た敵は眞實の日本軍である事を知つて急に退却を初めましたが逃げて行くからこそ追擊するうち何時の間にかハ市を占領して仕舞つたのです

## ◎龍山慘劇の主人公 何故女を擊つた？

### 始めは威嚇す心算だつたが憤怒の餘り思はず擊つたと警三郎は申し立てた

龍山驛前太陽旅館に於て演ぜられし殺人未遂事件の梗概は既報の如くなるが加害者中尾警三郎は兇行當夜龍山憲兵分隊署に於て永島隊長の取調べを受け十一時半頃

◆拘置監に 護送されたるが當夜同人の申立し所によれば被害者政代に對する兇行は全然殺意なかりしを主張し單に政代を威嚇して意に從はしめんとせし結果過つて斯る慘劇を演じ爲めに第一發の彈丸に

◆女が仆れ たるを見るや自分は度を失ひて亂射し其後の行爲は精神喪失の狀に在りと答へたり

### ▽加害者 警三郎の陳述

今其の理由を聞くに警三郎は政代と關係以來政代の身上に就きて少からぬ負債に責められ末無の爲めに今日迄女の我儘に服し居たりしも主家資榮商會の帳簿にも

◆穴を明け 今は百策盡きて女に再度の勸めを賴みしに女は一向に取り合はず強いて勸むれば内地に歸り他の情夫に身を寄せんとするが如き口吻を漏らして頑として警三郎の言を容れざるにより警三郎は四日

◆太陽館に 女を訪ひし際女を殺して自分も自殺し主家其他の債權者に對する不義の罪を詫びたる遺書を持參し之を女に示し女の意を翻し賠償ぜざる時は所持の拳銃を差し付けて

◆威嚇せん 心算にて女に對せしも女はそれに驚かざるのみか却つて侮蔑の言を以て酬ひたるにより憤激の餘り思はず拳銃の引き金を引きたるなり而して女が第一彈を右手に受けて打倒るゝや憐愍と恐怖の情に度を失ひ亂射せしものなりと陳述せり

## ◎女は曰く 油斷した隙に擊たれた

◇苦しい息の下から

一方被害者政代は鐵道病院に於て呻吟しつゝあるが同夜憲兵隊係員よりの訊問に對する申立てに依れば加害者警三郎より七百五十圓を以て落籍され當時より自分も相當の

◆金錢上の 犧牲を拂ひ相思の間柄として苦痛を忍び今日まで關係を結け居たるも男は近來自分に向つて再度の勸めを要求し若し要求に應ぜずば以前の

◆馴染なる 九州若松の藝妓を呼び寄する考へなりと云ひ毒質九月中に若松の某妓なるもの渡鮮して警三郎を訪ね來りたる事あり兩者の間に關係持續せること察するに難からず斯かる

◆非人情を 敢てして自分を藝妓に賣り警三郎は其金を以て若松より情婦を呼びなば女として嫉妬に堪ふる能はず故に男の相談を悉く斥けたり又兇行當日正午頃男は血相を變へ殺氣を帶びて訪ね來り風邪の氣味にて床に臥したる自分を呼び起こし

◆動物園に でも一緒に散步しては如何と云ひしも自分は氣分勝れざる旨を告げたるに男は酒を呼んで呷り懷より遺書を取り出して殺意あるを示し自分が返事に迷ひ居たる際にピストルを差し向け

◆有無を言 はせず亂射せりと陳述せり、察するに這回の兇行は痴情に起因する者の如く男の犯罪が過ぎたるか否かは疑問也

## □日本一の＝恩給取

### 山本權兵衛大將が筆頭 お次が大隈前總理大臣 西園寺侯は辭退した

物價騰貴は恩給又は遺族扶助料等を主たる收入として衣食して居る人達に對し甚だしい壓迫の手を延べたと見ねて近頃内閣恩給局に向つて直接に少し上げて貰ひたいと云つて來るのが少からずあると云ふとて又府縣知事にして

◇悲慘な報告 を齎すと同時に上げて遣る必要のある旨を云つて寄こすのが多いと云ふとだ此際チト恩給物語りをして見るに國庫の恩給總額は、文官五百四十六萬圓（二萬一千三百人）武官二千八十六萬圓（二十二萬八千四百人）合計二千六百三十萬圓人員約二十六萬餘人で殆ど全部官人に取られると云つても宜い昨年軍人には二割方の割增しが行はれたが

◇文官のは 明治廿三年の法律を依然として踏襲して居る恩給は人の知る如く俸給の四分の一以上三分の一強に迄上り遺族扶助料は恩給の三分の一となつて居る文官で五十圓の月給取は恩給は十二圓遺族扶助料は四五圓見當になる之では物價騰貴に逢つて狼狽するのも無理はない

◇某親任官 の遺族は月三十餘圓の扶助料で數名の家族が居る爲め慘めな有樣に陷つて居ると云ふ話だが親任官でさへさうだから他は推して知るべしである政府では遺族扶助料の率を恩給の二分の一とする樣に調査の步を進めて居る由で更に將來は恩給の率をも增加する方針を取るさうであるそれから日本一の恩給取は果して誰れかと云ふと彼の山本權兵衛伯で

◇年に四千 二百五十圓之に次ぐのは大隈侯の三千百五十圓、第三が瓜生將軍の二千七百圓である右三名中山本、瓜生の兩氏は勳章の年金も莫大だから遊んで居ても大金が懷中に飛び込んで來る譯である尙無慾な人は屆出でないで之を貰はないが西園寺侯杯もその一人だと云ふとである、之は古い話だが彼の

◇乃木大將は 息子二人の遺族扶助料を屆出でられたいと聯隊から注意すると乃木大將頗赤になつて憤慨し『俺の息子にそんな物を必要とする者なんか有ると思ふか』と大聲一聲したさうだ（東京）

## ◎誤つて裂けた 范家屯の日本國旗凌辱事件

滿鐵線范家屯に於て我が國旗を凌辱したる支那人二名は長春警務署に於て取調べの結果一人して國旗を二本所持し居たるより他の一名が一本奥れとて奪ひ取らんとし互に引き合ふ中終に引裂けたること判明し懲治の上放免せり（長春特電）

## ◎金剛山の紅葉 こゝ數日が最も見頃

金剛山の紅葉は今が真盛りにして最も見頃なるは内金剛の萬瀑洞百塔洞靈源洞等にして長安寺附近は四五日早く外金剛は三分通り紅葉したりと

## ◎秋晴の運動會 龍山と櫻井

何方も大賑ひに賑ふ 秋空晴れて好個の運動日和五日午前九時から櫻井、龍山兩小學校は夫々その校庭に於て秋季大運動會を擧行した

▲龍山小學校 午前九時から競技を初めたるが秋空に翻る萬國旗勇ましく參觀者場に溢れ軍隊側も大分顔を見せて居た、少女の遊戲『つばくらめ』と幼稚園ののごけない遊戲とは父兄達大喜びその時々の勝敗やら勇勝者の名は謄寫版の『龍山學校新聞』で報じられる、尋常一年生と大の男の先生と綱引すればお母さん達が旗を振つての聲援する其中に先生が敗けて大汗の處をポンチ畫にし號外として配附する等なか〜面白い、五六年男子の教練は小さい喇叭手の進軍曲につれて實に美事なるもの參觀の本物の兵隊さんが『うまいねえ』と感心する有樣、午後は一層の人出で賑つた

▲櫻井小學校 同じく九時五年女子の體操から初まり、勇ましい樂隊の吹奏裡に、勇ましい『球轉々』『綱引』『徒競走』『木の葉』や『一寸法師』『美しい蟲』の樂隊等で午前を終り河野校長が悧りするやうな大きな聲で挨拶をする軈て中食となると此處にも其處にも美甘し相なお辨當が開かれた午後は『接待準備』『行進遊戲』『海戰隊寄物』『敵陣占領』『川中島』等次から次へ競技は進んで行く、然も一層の人出で取囃げられて立派になつた運動場も人の波!!!かくて目出たく四時閉會した

◎浪花政吉來る 京城壽座に於ては愈々五日より日本一節劇の元祖浪花政吉一座にて開場の筈なるが同一座は中村梅章、片岡島十郎、尾上雛太郎外四十三名の大一座なり今回始めての渡鮮なれば盛況なるべし

◎栗拾ひ 陸軍高等官家族慰安の爲め六日日曜午前九時より龍山衛戍病院監獄構内に於て栗拾ひの催しある由 ▲總督府鐵道局員並に家族一行八十名は六日午前九時出發安養方面に赴き栗拾ひの快遊を催し午後五時同地を辭すべし

### 大掃除 ＝六日＝

左記各町は大掃除を施行すべし

吉野町一二丁目、古市町の一部、古市町停車場の一部

◎本願寺信友會 南山町本願寺に於ては五日（土曜）午後八時より信友會を開き深内會長の正信偈講話あり一般參詣者を歡迎すと

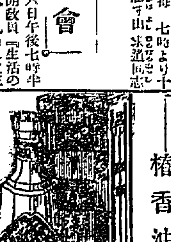
◎十月坐禪接心會 五輪山妙心寺に於ては五日より九日迄毎晩七時より十時迄十月坐禪接心會を催す由求道同志者の來會を歡迎すと

### 日曜集會

▲東本願寺（南山町）六日午後七時半より謹話に勝見開教員『生活の力』次に内監督 尙七日八日九日には三日續き一般參詣の爲めに特別傳道をなす由

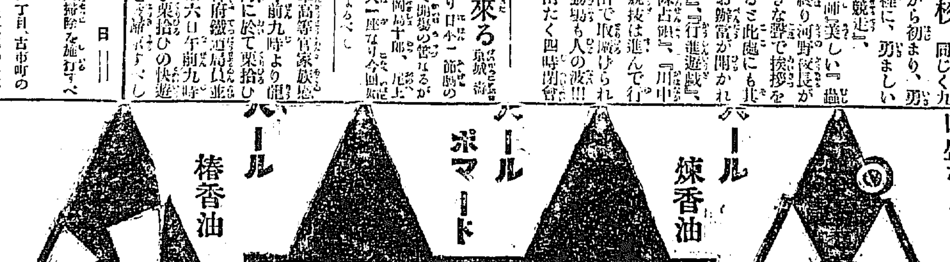
▲メソヂスト教會（旭町二丁目）午前十時より『常然の祈』中村牧師午後八時より『神の見たる人』全入

▲薫風會休會 若草町曹洞宗別院に於ては六日薫風會例會并に婦人敬愛會開催の筈なりしが都合に依り休會の由


化粧化學を應用し絶對的黒色養毛に適し更に遺憾なき現代理想の――椿香油なり

代理店 大阪 平尾レート 本舗 東京 平尾パール



毛髪の營養に富み日本に冠たる……世界的パール煉香油として内外の需要頗る旺盛なり

鐵道枕木 一千五百本 船材 一千八百枚 右海州龍塘浦ニ於テ廉賣可仕候間御希望ノ方ハ左記ヘ御問合セ被下度候 海州郡海州面南本町電話五十五番 大昌洋館 朴昌鎭

◆第七回新債券（一千圓のくじ十回 郵送料一口十錢） ▼即賣 ▼大割拂賣 ▼特約賣 [illegible]

日本勸業銀行構内 債券相場 勸業債券月報社

十月四日迄▲十一月くじ參加勸業債券規定賣買御申越次第進呈

| 種類 | 賣値 | 買値 |
| --- | --- | --- |
| [illegible] | [illegible] | [illegible] |

●御購入送料十二錢多數購買は特別御相談有價證券割賦法規五十錢送料四錢 債券時報毎號外三錢 月報三錢一年號外共一圓廿四錢 振替福岡五五〇番 電話一九五四番 福岡市下與服町 福岡支店 東京市麹町區内山下町 振替東京十八番 本店

結核專門 古賀病院 肺結核、肋膜炎、腹膜炎 齒科新設、子宮癌乳癌食道癌 九州線 [illegible]

二男攝二儀永々病氣の處養生不相叶昨五日午前十時死去致候間此段謹告仕候 追而葬儀は六日午後四時途中行列を廢し仁川東本願寺別院に於て相營み可申候 大正七年十月六日 父 西川麻五郎


仁川期米

| 後場 | |
| --- | --- |
| 寄付 | [illegible] |
| 止め | [illegible] |
| 高値 | [illegible] |
| 安値 | [illegible] |

◎近[illegible]組染色 京畿道江華郡[illegible]染色講習を開きたるが[illegible]

◎大邱驛倉庫成績 本月中旬大邱[illegible]

◎連絡船上陸客 四日[illegible]

天候 晴 （五日午後六時迄） 十月六日 [illegible]

仁川米豆取引　五日の十一月限

〇平北て試みた
# 炭價の調節策
七箇條の新施設

平安北道に於ては本年の炭價昂騰に對する對應策として左の如き施設を定めたり（新義州）

場合によりては資金を貸す

（一）新炭製造を營む鮮農は自己の經濟狀態の良好なる時は之が製造供給を中止し若くは手控ふる傾向あるを以て當局者は此等鮮農を激勵して其生産量を增加し自己の收入を圖ると同時に

◆一般を利せしむる樣◆

の擧に出でしむること（二）新炭製造者に對しては金融組合又は資力ある地方民をして相當資金を投ぜしむること（三）新炭商に於ても市場の需給關係を洞察し生産者との連絡を密にし極力供給を潤澤ならしむる樣相當の計畫を立てしむること（四）新炭の

◆大口買占を爲すべき◆

工場等に對しては自ら新炭を製造せしむるか又は新炭業者と商人と特別に契約を結ばしむる等特別方法を講じ市場に甚大なる影響を及ぼさゞる處置を採らしむべきこと（五）新炭製造用に供する爲め

◆國有林野拂下を願出◆

づる者に便宜を與ふること（六）生産者より新炭を直接購入する便なく且つ之を供給すべき新炭商等の無き地方に於ては團體を組織し

◆共同購入を爲さしむ◆

ること（七）暴利を貪る目的を以て買占又は賣惜みを爲すものに對しては警務官憲と連絡して充分取締を勵行すること等なり

〇調節成功す
◆機宜の方法を執りし爲◆

曩に滿鐵會社は奉天撫順炭等に日用物資の缺乏を來し一般市民の困難に陷らざる如未然に防ぐべく必須物資には速達の便を與ふる事とし最初は地方課に至り北證明を取る事に決定したりしも斯くては甚だ面倒なるを以て中頃より其手數を省くべく各驛に於て其の認定を爲し甚だ便宜を計りたる結果一部狡猾なる商人は此便法を利用し幾分利便を利せんとしたるも大體に於ては都合よく調節され殊に酒味噌の如き遠く朝鮮より供給を得野菜新炭の如きも俄に昂騰を見たるのみにて今日に至り已に各部隊北進を開始するに至りたれば甚だ成功したるものと云ふべく其施策の宜しかりしに對しては一般好評嘖々たり（奉天）

〇間島の鐵道
◆明年十月迄に開通す◆

滿蒙大興會社長飯田延太郎氏と吉林の素封家文錄氏の合併事業に係る間島天圖輕鐵は愈測量に着手すべく測量班二十名の一行は既に現地に就き今や其の準備中なるが是を指揮する技師長工學士山本鐵氏は往年滿鐵にありて鷄兒姓を呼び安奉線鐵道の改築當時令聞高かりし技師にて前年吉會鐵道線踏査の經驗を有し斯道の造詣深しといふ而して赤間輕鐵の敷設に盡瘁したる天寶銀銅礦重役にして豫備陸軍主計監たる濱名寛祐氏は一行と共に間島に入り其準備中なるが同氏は當分間島滯在の筈にて第一着手に會寧龍井間の開道を期し大正八年十月迄には兩地間の運轉を見るべしと（間島）

〇日向葵から油
◆米國種の試作と好果◆

滿鐵産業課に於ては兩三年前より熊岳城農事試驗場に於て搾油用米國種日向葵の試作を爲しつゝありしが其成績甚だ良好にして充分なる收穫を得べき事確定したるを以て搾油試驗を今回初めて中央試驗所に於て爲したる所油量も相當にして甚だ良好なる結果を收め得たるを以て尙ほ更に經濟的試驗を爲し收支相償ふや否やを研究し若し相當利益ありとせば一般に耕作を奬勵する筈にして一方目下盛んに産出しつゝある北滿西伯利方面に向つても調査を進むる豫定なりと（奉天）

〇間島に私設電話

支那官憲に屬したる局子街、龍井頭道溝間の電話は今回私營に移り元龍井商埠局長高立恒氏等發起となり市內電話を架設する計畫進み五萬圓の資本金を以て電話公司を創立するに至りたるが張延吉道尹孟第二團長等を始めとし文武官憲其株主に加はりをれりと（間島）

〇此冬の終航期
◆安東縣大連天津航路◆

大連汽船株式會社の安東、大連、天津航路は例年十一月中旬終航なるが本年も十一月十六日を以て終航となるべしと因に同會社外の諸船舶も殆んど同日頃を以て終航となるべしと（安東縣）

〇旅券不交付
◆黑龍江省行きの旅人に◆

支那內地旅行をする外人に對しては何れも護照を交付して相當なる保護を與へつゝあつたが黑龍江省の秩序は極力鎭靜に努めつゝあると雖も最近甚だ危險狀態に陷りつゝあるを以て支那外交部は外省に命令して同方面に旅行せんとする外國人に對し臨時護照を交付せざる旨通知し來り奉天省も其命を遵奉し暫く黑龍江省行きの護照を出さゞる方針なりと（奉天）

〇滿洲の石灰

本溪湖に於ける石灰の産出は殆ど無盡藏視られつゝあるが滿洲各地に於ける諸工業の勃興と奉天、立山、鞍山等に於ける建築界の旺盛は俄に其の需要激增を喚り本溪湖石灰業者は殆んど晝夜兼行の大繁忙を見つゝあるが今其の販路の關係を聞くに同處本年の製造高は約三萬三千餘噸に上り需用の最も多きは奉天の六千餘噸撫順の五千餘噸安東二千八百噸長春四百噸等にして開原鐵嶺其他沿線各地を初め吉林鄭家屯等に於ても普く需用されつゝあり殊に來年度に於ては鞍山製鐵所に於ける新需用莫大なるべきを以て同製造所にては之れが需用增加に應ずべく既に製造窯數基を增設し少くも數千萬斤の製産增加を計るべく目下準備に餘念なきの有樣なり今の所其の價格は百斤六十五錢見當を以て取引されつゝあり（奉天）

〇銀相場漸落

滿洲各地に於ける銀相場は昂騰又昂騰にて安東市場に於ては庫平兩一圓五十錢以上に暴騰したる結果大小洋錢、鈔票等も昂騰し日本金券は銀八十錢位の取引を見たるが昨今漸次下押し來り一圓三十錢內外に下落したり（安東縣）

〇贅澤になつて
# 皮の著物
上等は海狸と獵虎
白狐の皮は千圓
北滿西伯利亞產皮革相場

物價騰貴と雖も一般が華美に流れ著物などの贅澤になつた事は甚だしく冬に入つては汗を出ても毛皮の著物を著ると云ふ有樣で毛皮の需用の激增した事は夥しい一般外套などは獺か水犬の皮を用ひ上等なものになると海獺か獵虎、安い物では河ビーバー位の處を使用する今年は殊に毛皮が高く北滿西伯利產の最も上等な

獺の皮の相場は

一枚八十圓から百五十圓と云ふ相場で餘り高いから賣れ行が惡く一番捌け口のよいのは南支產の五十圓位から三十五圓位の處が尤もよく賣れる朝鮮物でさへも三十五圓から三十圓位出さなければ手に入らないとの事である河ビーバー一枚十二三圓で安くて體裁が好いから甚だよく捌ける

海狸と獵虎の皮

は二百五六十圓から三百五十圓位である近來婦人用の襟卷が流行り出したが其の相場を聞くに

（黑貂一枚分）二百五六十圓より三百七八十圓（赤毛狐）三十四圓より三十二三圓（上物三毛狐）三十四圓より四十四圓位（最上白狐）二百圓位より一千圓

著物の裏に用ゆる

皮は栗鼠、鼬、狐、狸等であるが栗鼠は百五六十圓、鼬は百四五十圓、狐は二百三四十圓狸は北物百三十圓南物七八十圓位である、防寒用の兎皮帽子は今年は時局の爲其原料が軍隊用として買上げられたから値段が飛上がつて安くても六七圓から十圓以上出さなければ買へぬとの事である（奉天）

〇嚮商殺犯人
# 泊つた旅館
屆出を怠た廉で
拘留に處せらる

一時全鮮の人心をして戰慄せしめ危惧の念を抱かしめたる嚮商殺犯人郡野川義雄は兇行後、情婦藝妓忠信と前後して平壤に入り込み一泊の上立去りたることは已に本紙上に於て報道したるを以て讀者の知れる處なるが斯の如き重罪犯人が見す〳〵城內に入り込み居れるにも拘らず何故官憲の手に逮捕せられざりしかにつき犯人の入り込みし當時の模樣を聞くに兇漢郡野川は去月二十四日午後五時頃平壤大和町六松岡旅館方に同人の知人某と共に來り今晚泊めて貰ひたしとて旅行用荷物のみを置き再び前記知人某と外出したるが其後聞く處によれば大同館に赴き二人は遊興の上午後十二時頃同家を立出で知人某とは同家門前にて別れたるまゝ夫れより二時間を經たる午前二時頃前記松岡旅館に立ち歸り其儘宿泊の上翌午前十時頃宿料二圓五十錢と外に茶代として金五十錢を支拂ひて飄然と立ち去りたるものにして一面松岡旅館にては投宿時刻の遲かりし爲め規定の屆出でを爲さゞりしを以て官憲にても知る由なく折柄二十五日即ち郡野川が投宿せし日の翌拂曉平壤黃金町に强盜殺人事件の勃發するありて之に全力を集中し居りし事とて尙一層探知するを得ざりしは返す〳〵も遺憾の次第なりしが松岡旅館の規則を遵守せざるため此闕陷を來すに至りたるものにて右事實の發覺したるは平壤署の寺田刑事が同館に臨檢したる結果にして夫が爲め同旅館主松岡キワ（四三）は平壤に於て取調べの上五日間の拘留に處せられたりと

# 新穀
☆仁川（品質優良）

愈々新穀出廻り期に入り京畿道の新米及び新大豆等續々出廻りあり九月廿六日烏山驛に於て中白米四叺の檢査を爲したるを始め廿八日には平澤に玄米八十六叺あり九月三十日には仁川にて大豆六十七叺十月一日六叺高浪津にて同二十叺を檢査せり而して其の檢査成績に就て見るに玄米及び中白米は全部三等に合格し

◆大豆の內三十五叺◆

は二等に其他は三等に合格したるは何れも大阪に仕向けたり新米は早生種として品質優良にして乾燥調製共に申分なく大豆は早生種及び長湍大豆の二種なるが早生大豆は聊か賣り急ぎを爲したる嫌ひありて乾燥不良のものあり仁川に於て日入れを爲し受驗したるものありしも長湍大豆は品質近年稀に見るの優良品を得殆ど粒形肥光澤共に些の申分なく何れも二等品に合格せり大豆は三等十五圓三十錢見當にして商內あり二等は尙ほ三四十錢の上格にありと之に就て仁川米豆檢査所主任は語つて曰く

◆本年朝鮮の農作物◆

は稻作畑作を問はず異常の豐作にあるは事實なるが如く稻作の如き朝鮮に於ては氣候頗る順調に更に何等の被害と認むべきものなく結實以降成熟時季に於て照り込み充分なりし爲め存外の增收を得たるものと想像せられ豐作に從つて品質の向上優良は言を俟たざる處にして調製上充分の注意を拂し精製に努力を惜まずば本年は輸移出穀類の品質は曾て無き向上を見るは疑ひなかるべし

◆大豆の作況を見るに◆

其の幹枝の生色あるは一見して本年の豐作を思はしむるものあるも莖の發育旺盛なる場合は割合に豫想の收穫を得ざるものなるを以て途說の如く二割の增收は望み得ざるべきも相當の增收あるは疑ひなき處なり殊に長湍大豆の出來榮は豫想以上にして從來長湍大豆の罷山大豆に比し下落なる所以のものは粒の小なると光澤其他の及ばざる等なりしも本年は豐作と共に大粒の大豆を得又光澤等も比較的例年よりも優良なるものあるべしと豫想せらる（仁川）

〇食べられる
# 木の葉草の根
平南各郡に分隊調査報告

平壤兵分隊で山野に生ずる草木の葉根で食用に供し得らるゝものを調べた事があつたソレは當時紙上に紹介したが更に最近平南各郡の兵分隊から集まつた調査の報告があるから之を報ずる事とした但し

之は草餅にする

蓬の嫩葉……等である

雜つこ九十六種

あるが愈々夫も食ひ盡した曉はまだ外に二十や三十種はあつて多少土地の氣候によつて又其種類も異るものは掲げない其他普通人のよく知つてるものや特に鮮語に屬するもの紙に掲載したものは煩複するから掲げない今度調べた結果による先づ

增ねたり減つたりするだらうが細かく研究すればモット食用に堪ゆるものがあるかも知れない即ち蒲公英の葉（漬物として食す）ヤケダモの嫩葉、錦木の葉、ヒウナの葉、ホナ薬菜、アカザの葉、オバコの葉、蕁の嫩葉、羊蹄の根、羊蹄草の葉、蒿藍草の菜葉、草綿の葉のである其他水蓬、槍葉の葉（汁にして）唐木の葉（したしにして食す）石菜の莖葉（同前）薇の葉、貫衆草の根、ナム僕の芽、黄楮の根、薺、稭の莖（强壯劑になる）莢の蕊葉（狗尿劑になる）等である（平壤）

京日紙上軍事お伽
# 父なき兄弟
龍山　涙光

村のはづれの林にも、秋の七草色々な野邊にも、つるべ落しの日が暮れて、物凄い薄闇が四邊の空氣を包む頃、十か十一かと、七八の頭の少年が、互に手を取り合つて細道たどり我家をさして歸りかけて參りました

千草八千草咲き亂れて

年下の少年は鈴のやうな聲を振上げ〳〵蟲に鳴く蟲と聲を競うて歌つてます、沼の向ふの林の方で名も知らぬ白い小鳥が翼音させて何だか、秋らしい、悲しい聲でチ〳〵チ〳〵と啼いてます、こんな可愛い小鳥でも家が戀しくて啼くのでせう、黄昏の村の家々には赤い灯がチラ〳〵とついて居て林の向ふに光つて見ねます、年下の少年は、ふと立止つて悲しい小鳥の聲に耳をすませました、年上の少年は

『旭ちやんどうしたの？、早く歸らうやねえ、お母ちやんが待つてらしやるから』

と小さい少年の顏をのぞき込みました、少年は可愛い瞳を曇らせて

『兄ちやん！』

と寄りすがり

『あの—、あの—』お國のために西伯利へ戰爭するためにお出でになつたお父さんは、今どうしてらしやるでせうねえ、小鳥の聲を聞いてたら急に僕お父さんの事が思はれたの……しかしあの勇ましい父さんだから、乾度今頃は栗毛の馬に跨つて、『ハイシドウ〳〵ハイドウ〳〵』矢彈が霰と降る中を厭はず進んでいらつしやるね』

二人は仲のよい兄弟であります、その二人を可愛がつて下すつた父さんは、麻と亂れた露西亞を救ふために强いお國が相談して戰をおこした西伯利へ出征なすつたのでありました、弟の言葉を聞いて兄さんは夕闇の中にも星明りで曇つた顏色が見ねました、そして何事も得云はないで、弟をしつかり抱き締て、赤い唇をかみしめ、ハラ〳〵と涙をこぼしました

『旭ちやん、お前は何にも知るまいがねえ、戰にお出でなすつた父さんは、僕達の父さんは、飛び來る敵の彈丸に命つて、逐う〳〵戰死をなつたのだよ、僕もそれを母さんから聞いたのだが』その時母さんは僕を膝に抱きしめてねえ、旭に云ふなとおつしやつたのよ、ねえ旭ちやん、父さんは斥候に行つての歸りがけ、赤い夕日の照る原で逐う〳〵戰死をなすつたのだよ

だけども、だけどもねえ、元氣な父さんはた『萬歲』を名殘りとしつたつて、赤い血潮に染まつて笑うてゐなすつたつて、僕、その父さんの勇ましいお顏がありあり見ゑるやうだ、隊の人から知らして呉れた、戰死の報せを母さんとランプの火をかき立て〳〵見たのだが、旭ちやんは何も知らずにスヤ〳〵と寢て居たのだよ……あれ〳〵お山に夕日が落ちて行く、しかしあの悲しい夕日は落ちて行つても明日になつたらまたきら〳〵と光つて出るのにねえ、僕達の父さんは知らぬ遠い西伯利で亡くなりなすつたきり、見たくても逢ひたくても出來ないなんて……二人は悲しいわねえ』

四邊は次第に暮て行き、蟲の啼く音が胸をそそり立てます、

『僕が母さんに抱かれて泣いてたらねえ、それでお前は何うしますの？そんなに泣いてるやうでは軍人にはなれないよ、大きくなつたら立派な軍人になつてお國の爲めに盡すのが何よりのお父さんに對する孝行だよ、と涙をこぼしておつしやつたから、旭ちやん、お前も軍人になつてお國のために盡すわねえ、お母さんはそれだから髮を切つてお仕舞になつただらう、佛壇に新しい位牌が祭られたのは、お父さんだよ』

は『兄さん、兄さん』と抱きついて永い兄の物語りを聞いた旭ちやん

『それでは、お父さんはこう〳〵戰死なすつたの？』

と玉の涙を拂ひながら

『僕は最う、玩具も何もいらないよ、どんな悲しい事があつても乾度泣かない、ねえ兄さん、泣いては大將になれないねえ』

と小さいお手々を合せて

『兄さん、あの上の上の、星樣が父さんでせう、父さん僕は……僕は泣きませんよ』

兄と弟の兩頰には泣きはしないが涙は流れて居りました

『二人はきつと大將になるんだねえ』

兄は更に弟を抱きしめました、小鳥の聲に日が暮ていよ〳〵暗くなりました、村のまばらな家々からは赤い灯がまた、いてゐます、二人は涙をはらつて立ち上りました、最う涙も流しません

我等は日本男子なり
世界で强いは我等なり
幾百萬の大軍も

勢ひのいゝ聲が野面を渡る秋風に送られて夕闇の中へ消ねて行きました。

（張三李四）

◆米商殺しの强盜犯◆ 鳥致院の米商横山庄作を慘殺したる支那人强盜張玉祥（四三）は公州監獄に收監中の處京城覆審法院の公判に移る事となり護送されたり

◆納屋頭の驅け落ち◆ 福岡飯塚炭坑の納屋頭平田平太郎（四三）は妻子を捨て同坑夫頭郡甲七郎妻キヨ（二七）を口說き落し大連へ驅落せし形跡ありとて所在捜査中

◆十八歲の花嫁縊死◆ 大邱達城郡洞里裵好爺妻金岩甫（一八）は嫂と口論せしが遂にそれを苦に病みて同家温突の一室に入り內より錠を下して縊死を遂げたる由

◆海女の密漁取押へ◆ 慶北東海岸亭子里沖にて慶州郡陽北面浦里の西岡惣三郎（三）が海女中野よし外八名を率ゐ無免許にて鮑の密漁中變裝警官隊の爲に捕へらる

◆亂暴極まる銃刑◆ 松花江黑龍江合流點拉哈蘇々支那豪商某方へ支那兵一名窃盜に忍び入りしを主人が拳銃を放ち兵士に負傷させしと其主人は銃殺せらる

台所 其の日

◆たゝき牛蒡の胡麻かけ◆ 牛蒡を五六寸位に切り、皮は庖刀でこそげて取り、水に浸ぶるほど入れて茹で、水氣を切り、俎上に置き、庖刀の峯で好く叩き、二寸ほどに切り、少しの鹽を加へ、酢の中に漬け、一時間ほどしたる後、皿に取り砂糖をふりかけ、煎り胡麻を摺つて上からふりかける

京城豫報　時　曇

肺病不治か
肺病必ずしも不治にあらず當寺住職先年肺患に罹り瀕死の際不思議の因緣に因り一奇藥を發見し九死に一生を得爾來多くの患者に試驗を重ね研究に由り肺病の療法と共に奇藥の處方を公開し之を有志の援助に依り同病者救濟の目的を以て二百部限無代進呈す肺病其他の病に惱める人は迷はず速かにハガキにて姓名を記し大阪市西區本田三丁目光泉寺へ申込まれよ

他に類のない自宅新事業
無資本同樣誰でも金儲は樂に出來る一人一ヶ月責任保證

百圓 内外實收
廢物利用最新有利新事業を公開今までの內職とは全く異り定收益授をなし成功保證で直ぐ利益就業せしむ詳細ハガキで申込ば方針を報導す東京牛込區通寺町廿二日本化工製藥社

りん病 淋滅
急性慢性を問はず博士發見の新藥を配合せる淋滅を御用あれば全治速なり藥價一圓四十錢二圓七十錢四圓送料不要

ルーデサック 特製品
A十個五十錢 B十個七十錢 十個八十錢 女用一個一圓三十錢 郵券（三錢）代用一割增
京城黃金町三 山田文殊堂藥房
料不要 振替京城三二七

秋の家庭料理に
文明的調味料
味の素

一等割增金貳千圓附 初回抽籤は本年十二月
最初三筒年間は年二回 抽籤三回目迄 同額割增金添附 くじなし
第七十回 勸業債券（四分利拾圓券）賣出
十月一日より十五日まで
日本勸業銀行、同大阪支店及各地代理店、取扱店並郵便局にて

今十月五日より開演
日本一の節劇元祖 浪花政吉來る
本町三丁目（電話五七八番）於 壽座

＝原內閣と大新＝
諸惡材による株界の最低相場は既に實現せり積極的なる原內閣が不便不徹底なる小口落禁止に就き何等かの緩和策を講ずるは萬人の疑はさる處にして今や奔騰の氣運滂沛たり此際第十回を組織し大株新の買付を敢行し大捷を博せんとす諸士夫れ決然參加せられよ
加入金一口五拾圓 申込期間十月十五日
日本信託商會證券部
第十回 株式（大株・新）買同氣會
會則進呈
大阪市北區堂島濱通一丁目 電話北長九七二 振替大阪四〇五六九

活動寫眞器械
公衆用百五十圓以上 家庭用八拾圓以上 少年用二圓五拾錢以上 各種
フイルム（一尺拾錢以上種々）活動寫眞常設館又ハ地方巡業用新設ニ特ニ御便利ニ御相談可仕候
幻燈器械
公衆用五十圓以上 家庭用五圓以上 少年用壹圓以上 各種
幻燈映畫（教育風景等數千種）目錄は御名記入御請求次第送呈（要郵券貳錢）
大阪市西區新町通壹丁目 高木商店
電話新町一〇一九 振替大阪三九四〇

旅行用具一切
毛布各種 專賣品柳製鞄 東京製鞄各種 國旗附屬品共 魔法瓶及中瓶取替
鞄製造販賣 高木旅行用具店
京城本町一丁目電話一三四番

# 商況

## 東京期米特電

未着

## 兵庫期米特電

未着

## 大阪株式特電

| 種類 | 払込額 | 日後場 |
|---|---|---|
| 宇治川水 | 五〇.〇〇 | [illegible] |
| 京阪電鐵 | 五〇.〇〇 | [illegible] |
| 東洋紡績 | 五〇.〇〇 | [illegible] |
| 同上新株 | 五〇.〇〇 | 二六.〇〇 |
| 鐘淵紡績 | 五〇.〇〇 | 三三四.五〇 |
| 合同紡績 | 五〇.〇〇 | [illegible] |
| 東洋紡織 | 五〇.〇〇 | 一三〇.一〇 |
| 大阪商船 | 五〇.〇〇 | 一三〇.一〇 |
| 日本郵船 | 五〇.〇〇 | 二〇七.〇〇 |
| 同上新株 | 五〇.〇〇 | 一九九.一〇 |
| 堂島米穀 | 五〇.〇〇 | 三六.八〇 |
| 東京株式 | 五〇.〇〇 | [illegible] |
| 大阪株式 | 五〇.〇〇 | 一五〇.六〇 |

## 大阪三品特電

四日後場
十月限 四二〇.〇〇
十一月限 ……
十二月限 ……
一月限 ……
二月限 四二四.六五

## 大阪期米特電

五日前場 寄付 三十四圓三十錢

## 下關期米特電

五日前場 寄付 …… 高値 …… 安値 …… 止め ……

## 雜報

五十錢方を引上げ今朝は特等四十圓五十錢一等三十九圓五十錢を唱へ持米手薄の向きに至り九圓五十錢 九圓三十錢見當を主張しつゝあるが一時投出正米も急騰反落し漸く新穀氣分に移らんさせる模樣なれば自然正米も一等米の四十圓は此邊を天井さして早晩の反動を惹起するに至るべし

●銑鐵依然氣迷 季節柄貿易旺んなるべき筈なるも米國アメ銑五萬噸輸入の呼聲にて買氣なく唯必需筋が弗々商談を進むるのみにて安値持の要なりされど各手持筋は此五萬噸の輸入は明年上半期末の事なる上に悉く久原の手より船舶交換調印の大手造船所筋へ分配さるゝものにて市場に出廻るべきものにあらずさなし更に買急がず益々强硬態度なるより賣買者間には著しき値鞘を生じ高値は五百四十圓以上を唱へらるゝも中値は先づ四百八九十圓見當なるべしさいふ而して再製銑鐵は製造工場續出の結果安値投出物の現れたることとて人氣は一段沈み勝ちなり

●京城在庫穀物 京城九月末日調査の現在穀物は玄米一萬四千三百五十二叺白米二千六百十九叺粟二萬千七百七十四袋大豆一萬二千五百二十二叺其他左記の如くなるが之を八月末日に比較すれば玄米七千三百七十九叺白米二千二百七十四叺の増加を示せり

▲朝鮮一銀行東帶出張所 玄米 三四三叺 大麥 八二二叺 小麥 三〇六三叺
▲朝鮮商業銀行南大門支店 玄米 一六五〇叺 白米 五〇叺 大豆 二七五四叺 粟 六七八六袋 胡麻 五八八叺 雜穀 七六〇叺
▲漢城銀行南大門支店 玄米 四〇六七叺 小麥 一四二叺 大豆 一五七九叺 粟 八六叺 荏子 八六叺 雜穀 六二三叺
▲市村倉庫 玄米 二七六九叺 胡麻 一二九叺 白米 八二八叺 粟 一〇七四袋 碎米 二〇〇叺 大豆 三二六叺 小豆 二〇九二叺 緑豆 一五一五叺 大麥 三七八一叺 小麥 一九一〇叺 籾 一〇一叺
▲齋藤倉庫 玄米 一二五五叺 荏子 三三三叺 大豆 四三八叺 胡麻 九〇四叺 小豆 一七二八叺 胡麻 一一九九叺 粟 一〇二九叺 小麥 五三五叺 大麥 三五二一叺 小麥 二五九七叺
▲京城精米所倉庫 玄米 八三叺 大豆 一四〇叺 白米 一七八八叺 裸麥 四三一叺 大豆 二三四五袋 小麥 六一八叺 粟 三二四五袋 小麥 二七二七叺
▲漢城銀行鐘路出張所 大豆 三〇〇叺 胡麻 一八四叺

●小賣白米値上 白米小賣値は別項卸値の引上げに連れ五日より各等一方の値上を行ひ一等米三十九錢五厘二等米三十九錢となせり

## 下關相場

●朝鮮米も好氣配 其後白米千三百六十八叺の輸入ありしが現物の如き下地品薄の折柄引續き相當に注文入り來る將來米主の强氣き相場變らず人氣好況を示し現物の成行きは左記の通りにて買れ行きは良好なり尚は本月物も今朝は四十二圓臺にて段々出來したるも跡同値段は一寸買り物あらざるもの如し
●小豆は弛ます 本品は其後に繰り口の商内行はれずして市況活氣を呈するに至らずさ雖も前報後出廻り途切れたるさ正米高の影響として現物産地の人氣安からぬに連れ各手持筋の賣り腰強くして容易に手放さゞる結果

●白米値上げ 米内白 は頃日來漸次原料の昂騰を受け漸く不採算となれる外内地元山方面より相當高値の注文込みし大手精米所は何れも原料買附値を高め、遂に一圓の値上となり市中卸値も昨日來

## 京城正米市場

物三十圓五十錢
▲玄米 上物三十八圓五十錢 出來値左の通り
當市場の氣配は暫く見送りの如き情勢の下に…昨午後は買り新米出現物三十殊に昨午後は一部の買進に突飛高を告げ在來三圓に出來せしものあり今朝は賣人の唱へ一厘高張り來りしも買人の急激暴落に…買人躊躇の模樣さ只割安を狙つて進まざれば商談多く不折合ひなり

五百九十二叺最高三十二圓最低二十九圓五十錢西貢米四十袋十八圓五十錢出來したるのみにて浮動の裡に小甘き成行きを呈せり

## 南大門廻穀

仁川白米六九叺黄州裸麥三〇叺 仁川大豆五六叺一山白米五一六叺 新慕州麥二一七叺陵山小麥三〇叺 鳥山白米六五叺里裡裸麥三〇叺 水原白米三三叺

## 仁川正米

▲籾の入荷少なし
▲正米は大阪定期の大暴落仁川期米の大暴落に人氣一變の形勢にて買入見送り居るも全く蝕賤時期に際し居るより發したる賤物もなく市場閑散にて氣配渾沌たり

## 釜山穀物市場 四日

▲正米暴騰 昨夜來の降雨により産地よりの出廻も思しからず當地庫入品も持出されば今市場賈物としても稀薄の供給は當地の景況にあり本邦大阪定期米は兩三日來より高値を演じ本日も又々高氣配を報じ居ること なれば市場稀薄なる活氣を帶び本日は出廻稀薄なる等より各荷主の買腰強硬にして容易に買人の附値に應ぜざる有様とて依然相場は一圓四五十錢高を唱ふるに至りなるが當市場の値に買現人は相變らず精米筋の庭際補充買の重立ちたるに當用小口にて弗々賈ありて午前中四千餘個の商内取引はれたるが日先きは尚强硬なるもの如し

●大邱米況（四日） 正米は賈物稀薄の折柄各地商内地よりの注文入試みるも荷主賣値切高値にて容易に手合盤はず相場見當としては神力三十五圓六十七錢より品により三十六圓どころの唱なり
▲新大豆保合 天候不良に出廻なく買方も氣乘薄にて本日無商内なるが相當見當十五圓六十錢

◎木浦米況（三日） 大阪正米市場の模様は一寸判明せず格別の買注文も入りあらず然も定期高さ及び釜山の買進みにて引續いて高く本日に三等三十三圓送五ふ寸買はず重い所なるも昨日より二十二錢の引締りたり昨日は三等三十二圓六十錢にて五百叺の商内ありたり

## 各地商況

●朝鮮一等米 四十三圓
●同 （當用） 四十三圓五十錢
●同 本月物 四十二圓
●同 元山大豆 十九圓七十錢
●同 宣川大豆 十九圓二十錢
●同 汗浦大豆（堤日）十九圓三十錢

其後賈れ行き捗々しからぬにも拘はらず格別市況弛ます
●大豆は依然晩かり 本品は引續き相當に出廻りありて別段買進む相人の人氣安からぬのみならず昨今輸入ある分は可也に荷主の在之所各荷主の商情を呈し入着したるは擧州產四百十俵釜山新二百五十叺金物產三百八十叺ポアン物二百五十叺等なり

## 生魚市場

京城日丸市場 △たい四三△いち一五△あなご一三△さば一〇△あじ九△もねび一二〇△にべ一〇△かつを一〇六△あわび二〇△小たい三五△小物一〇

## 仁川期米

▲第一節 各地前寄來著にて當地中新期發き昨止先二十七圓十錢より九十錢大下放れに寄付き急ち四十錢と跳れたるも賣物多く六圓九十五錢と暴落したるが買物漸く多く七圓〇六錢と返し更に六圓八十錢と暴落し九十四錢と返し更に六圓八十錢と暴落し九十

▲第二節 先九十一錢より九十錢と止りたるも賣物に二錢と跳れたるも賣物しだるが買物漸く多く八十錢と四錢と返し二錢さ大蝕職を演じて引

▲第三節 先八十六錢より九十五錢と跳れ八十錢と押し九十錢と返し八十錢引
▲第四節 大阪前寄四圓三十錢と高移りにて先九十二錢より四十錢と跳れたるも戻りは賣物多く九十錢と押し一錢引
▲第五節 先九十二錢より四錢と返し不勢の成行きを示し

▲五日前場 先限⊖二十七錢十錢四十錢メ五錢二十七圓二十錢五十錢二十七圓二十五錢九十五錢…

## 市場雜觀

▲昨夜場に至り取引所は當分の内十一月限の新規賣買を停止する旨揭示したり一面談合談は倉本氏の盡力により買方力武筋買方々筋の間に中限一萬三千餘石二十七圓五十錢にて部分解合成立したるさ同時に取引所の解合行はれ直に取引所へ附出したるより取引所は前記の如く中限の新規賣買を停止し居るの場合新甫發會を開始するに至りたるに大阪の暴騰を受け買物多く直ちに發會したるが賈物多く一二十九圓丁度と空前の高値を出し九十錢と返したるに…

▲解合は尚其他にも既に小口にて解合たるもの多數にして取引所は未だ著電なかりしが店への催合は大阪前場三十六圓十錢四安移りありたりと引跡の著當大に昨三日前場

| 節 | 當 | 中 | 先 |
|---|---|---|---|
| 一節 | 四二一〇 | 三二五二〇 | 三六八八〇 |
| 三節 | 出來不申 | 三六一三〇 | 三四五〇〇 |
| 七節 | 出來不申 | 三八一二六 | 三五九〇 |
| 八節 | 出來不申 | 三八七〇 | 三五〇一 |
| 止 | 四二一一〇 | 三四七九一 | 三五七一九 |

大阪後場

| 節 | 當 | 中 | 先 |
|---|---|---|---|
| 一節 | 四二一九〇 | 三八一二八 | 三六二一五 |
| 二節 | 四三五三〇 | 三八一五〇 | 三五一九五 |
| 四節 | 四一〇五 | 三四〇〇〇 | 三六一〇七五 |
| 五節 | 四七六〇〇 | 三四一〇 | 三六〇五 |
| 止め | 四〇〇〇五 | 三四一〇〇五 | 三五一〇〇五 |

▲今朝天候晴天昨日大阪の成行は前記の如く大々的暴落を報じたるより當地先二十七圓十錢と大下放れに寄付が急ち四十錢と跳れ返したるも賣物多く急轉六圓七十五錢と大暴落し漸く買物多く大阪の高移りに九十四錢と返して散會したり市況は大阪の狂瀾怒濤的大變動に連れ發會直に一急轉六圓より七十五錢と賣に二圓二十五錢の大暴落を演出するに至つた爲政府の交迭さ内地に於ける秋日和の不良に依り意外の高直出現しつゝ反動暴落を報ずる尊直の大なると共に高値の聲も亦甚しく尚今後新穀出廻り期に際し居るより更に面白き變動を演出するならん

## 新甫發會す

▲二日發會すべき新市十二月限の發會は前報の通り事情の許に適合不可能となり臨時休會したるが三日も引續き臨時休會し四日に至り一部の解合談成立したるを動機とし昨四日後場に至り當局は依然新規賣買停止中限は當分の内新規賣買を停止する旨揭示し新市のみ立會を開始したが大阪の狂的大暴騰を受け新市二十九圓丁度と賣に空前の高直に發會したるが賣物現はれ形勢一變暴落歩調となり遂に八圓〇八錢と大暴落して散會したるが今前場は依然大阪の大暴落を受けて二十七圓十錢と賣に九十九錢大下放れに寄付き忽ち四十錢と返したるも賣物現はれ六圓七十五錢と大暴落せしが大阪の小高き移りに九十四錢と返して散會し更に角政府の交迭に依り意外の大變動を演出したるより米價調節に一變化を來したる追々新米出廻期に接近するに連れ益々大變亂を演出する者と思はれる

太仲買店 仁川米豆取引所仲買人 仁川海岸町三丁目 電話長四〇四番二〇 電略「ア」又ハ「カ」

## 仁川米豆取引所

五日〇十二月限

| 前場 | 平均値段 |
|---|---|
| 寄付 | 二十七圓十錢 |
| 高値 | 二十七圓四十錢 |
| 安値 | 二十六圓七十五錢 |
| 一節 | 二十七圓丁度 |
| 二節 | 二十六圓八十錢 |
| 三節 | 二十六圓八十錢 |
| 四節 | 二十六圓九十錢 |
| 五節 | 二十六圓九十四錢 |

## 白米小賣値

一等白米 三十九錢五厘
二等白米 三十九錢

## 白米標準値

三十九圓五十錢

# 毛谷村六助 卅六番角力（ばんずまふ）

第廿六席 桃川桂玉口演 浪上義三郎速記

案より孝心深き毛谷村六助、此の話を聞いて涙を催し 六『イヤそれはお氣の毒な事でござりまする、然し貴下も一流の奥義を極めしお腕前、何故其の六助とお立合はなされぬぞ 徹『却々以て我々の及ぶ所ではござりません、樣子を聞けば、拙者などの腕前より何等上の武藝者も小兒の如き取扱、況んや未熟の拙者如きの及ぶ處ではございません』六助は笑ひながら『六イヤお武家、何を祕そう私が其の六助でございます』彈正は驚き樣子にて 徹『エッ、それでは貴下が六助先生、洵に面目次第もございません、お見受け申せば丸で朴訥な町人かお百姓と心得て恥を打明け申しましたが、祕す內にも祕すべきその先生でありましたか、物も云へぬさうだ、御心配なさるな、時に先生、微塵流とは未だ見たことがございませんが、是非一度ございまするか 徹『如何にも長剣でござる 六『それは幸ひ手前は小太刀、聞いて受ける切返しに 微『あゝ有難うございまする、其の手前まで御傳授とは、師父も及ばぬお慈悲のお言葉、九ッの世は變るとも忘却は仕まつりません』と云つて居る處へ例の門番が藥を持つていそ／＼戻つて參りまして 門『へエお藥を買つて參りました 六『あゝ御苦勞樣、サア お武家、此は當村の庄家で販賣致す家傳の妙藥委細は能書にございますれば此をお上げなさい 微『何から何まで有難く心得ます 六『手前は是より用事もあれば是でお別れ申します』

お恥しうございます』赤面して遂に人る 六『イヤ／＼御心配なさいますな、恥を忍び實を明かすは是人の本心、孝は百行の基、萬金の司とは茲でございませう』微塵先生は承知いたした 微『エ、承知いたしたこの仰せは…… 六『されば、貴殿の眞實如何にも敬服、此の六助が承知と云ふは御自分と六助が立合の儀ぢや、今より城下に旅籠を取り役所へか、つてお願ひなされ早速試合を仕る、お拖へに相成らば何分主君を大切とお勤め下されたい、藥が參らば早々城下へお出が宜しい』懇きながら微塵彈正 微『僕は先生未熟の我等を 六『イヤサ何もかも御孝行の德にいたすのぢや、生ある內の孝行が何よりでございまするぞよ 微『へ、エ、先生御禮は口へは出ません、母上貴下もお禮を被仰つて下さい』婆アは淚をホロ／＼流し、口をモグ／＼いたすのみ、兩手を合せて平伏致す、六助は 六『あ、御老母はまア有難うございます』それを思へば是れまでの苦しみはなんでもない、爰ばかりか五郎八までホンに浮み上がりますよ 徹『ウム、五郎八と云へば、其の住居は何處だ 里『未だ是から餘程あります彼處に見ゆるあの山の拾當其裏に當りますがな 微『ドレ何の山だ 里『彼處ですよ』ミズッと前へ出て指しながら一刀の柄に手を掛けました。

暇を告げて六助は相も變らず母の墓參りを濟ませて我が家へ立歸りましたが、後姿を見送つて彈正はにも笑ひ再び婆を背負つて元の街道へ立歸り 微『あゝもう宜からう、歩いてくれ、歩いてくれ、然し旨いものだな、苦しむ樣子も却々能く出來た、大地へペッタリ伏して居る體は隨分太儀であつたらう 里『何にそれは何んでもなかつたが、あの馬鹿野郎が呑ませてくれた熊の膽、イヤもう苦いこと／＼ 微『是は弱つたらうな、然しあの二度目に何も云はず口をモグ／＼淚を流してお辭儀をした處の樣子は至極宜かつたぜ 里『何然うではございません、苦いので口は利かれず淚を出すことが出來ないから、手を合はして俯伏したなり密と藥を吐き出したのでございます 微『それはとんだ過ちの功名であつた、僅の間の苦しい思ひでさア是れからは樂隱居 里『ホンに

## ◎安東縣近事

▼村井東亞主任 東亞煙草安東出張所主任村井長太郎氏は事務引繼ぎの爲め前任地大阪へ出張中にて四日に歸安の筈なりしも後任主任內氣の爲め多少の時日を要すべく何れ歸任は十日頃となるべしと
▼營業一班配附 鴨綠江採木公司第十周年記念として發行せられたる營業一斑は印刷の都合にて記念日迄に到着せざりしが近頃愈々著したるを以て各關係者へ夫々配本を了したり
▼安東醫院患者 滿鐵安東醫院に於ける九月中の患者總延人員は入院三千九百六十九名、外來七千二百六十八名にして外來の最高人員は三百九十四名、最低百四十五名平均三百二名なりと
▼貯木所長更迭 採木公司貯木所長沙河鎭分所長は是迄技師中島綱太郎氏同所長事務取扱を命ぜられたり
▼歸去來 鳳凰城に出張中なりし大津陵氏の來任なりしが今般彰方東邊道尹、王安東海關監督は何れも二日午前著列車にて歸任したり令兄の訃に接し歸國中なりし安東信託株式會社常務取締役大原清逸氏は去る三十日歸安したり
▼滿鐵檢閱行程 滿鐵監定期檢閱中なる瑞丘務局長の一行は四日午後五龍背著一泊の上五日午前安東に來り同日安奉線を檢閱し元寶山溫泉旅館へ一泊六日午前發列車にて歸任の途に就くべしと
▼傳染病不終熄 安東地方に於ける傳染病は未だ終熄に到らず每日赤痢、腸窒扶斯、實扶的里亞等の發生を見つゝあるが症狀は何れも輕症にして左程憂ふべきものにはあらざるべしと

十月七日九星 舊九月三日 丁亥 本命一白北除大安

一白 容和くした暗日新事見合西方は吉 ▲二黒 蒸和造からぬ事行日新事手拔名事は吉 ▲三碧 頼を人に求め紹介仲人事が禁 ▲四綠 新約妨約ス 遊娯新婦 遊茶萬吉 ▲四綠 花のよふな日輕く居入學皆吉女子の婚約なる事 ▲五黄 秘ろの事多き日に行 ▲六白 影なる日轉居入學名出 ▲五黄 秘らめ事多き日の約束に用心せらるべし ▲六白 影なる日轉居の商人學名出し ▲七赤 昵懇の日轉居行商人學名出 ▲八白 大望は不有日新事手拔名事は吉 北方數▲九紫 皮肉な事有日新手書事は吉に注意せらるべし

# 演藝案內

本町三丁目 電話五七八番 壽座

本日一節劇元祖浪花政吉一行
▲前狂言宮本左門之三助通し
▲切狂言義士外傳忠僕直助二幕

早川演藝部常設館 有樂館

十月四日より特別大興行 ▲人情劇故鄉の母 ▲大活劇啞娘 ▲第三灰色の幽靈

本町一丁目 電話一〇五〇番 壽館

▲滑稽デブ君の僥倖 ▲絕海奇談孤島の花

櫻井町 電話八七三番 大正館

▲新派悲劇金色夜叉 ▲疑問の死

京城一手代理店 黃金館

▲先驅の叫び

明治町二丁目 長電二六〇番 京阪落語若手大一座 浪花館

落語 手踊 三遊亭 落語 浪花節 笑福亭 落語 音曲 桂 大切 喜劇

山縣五十雄村上唯吉共著 富の道しるべ 價十五錢 郵稅二錢 京城太平通 振替京城三〇〇 京日代理部

文樂座 電話三八番

# 商業登記公告

[illegible]

京城地方法院

寫眞 京日寫眞製版部

互光商會汽船出帆廣告 釜山西湖、城津、清津行 十月八日 大阪行 釜山出帆

日本郵船仁川出帆 大連、天津行 九月廿二日正午出帆

共同汽船仁川出帆 共同丸 十月 日正午出帆

大阪商船仁川出帆 群山木浦大阪行 安東丸 十月 日正午出帆

尼崎汽船仁川出帆 大阪直行 赤城丸 十月 日後四時出帆 群山木浦下ノ關大阪行 大有丸 十月六日後四時出帆

朝鮮郵船出帆 敦賀行 平安丸 十月五日 元山發 ▲浦汐行 越後丸 十月十三日 釜山發 ▲雄基行 京畿丸 十月十二日 元山發 ▲元山雄基線 成鏡丸 十月七日 釜山發 穩城丸 十月九日 元山發

本社 京城南大門通 電話長一九五二 其他各寄港地ニ荷客取扱店アリ

# 京城日報

第五版

## 京城日報　朝鮮同胞に告ぐ(十二)

日本肯義特に神道に就きて

### 神道の本體(上)

吾人は前數回に亘り、略日本肯義特に神道の輪廓を描き得たりと信ず。今や進みて其內容を檢すべき時機に達せり古來日本神道を解釋するに、儒教的の研究若くは佛教的解釋を以てしたるものあることは、前に述べたる所の如し。近時に至り更に西洋哲學の見地より之を觀察するものなきにあらず。是の如きは頗る奇なるものにして神道は唯だ日本固有の思想を以て解釋するを至當とするの議論もあらん。然れどもこは實に凡俗の見解にして、神道其ものの性質を知らざるの語なるのみ。元來神道は、日本國民が祖々先々遵奉する大道なりと雖も、他の諸宗教の如く、之を創唱せるの祖師あるにあらず。之を敎說せる經典あるにあらず。從つて言詮語詮の上に其の敎旨を捉へんとするも、何等の據る所あるなし。若し強て神道の本體如何を問ふものあらば、日本國民に共通せる大精神是のみと答ふるの外なし。論語にいふ『天何をか言はんや、四時行はれ、百物生ず』と。易にいふ『大なるかな乾元、萬物資りて始む、雲行き、雨施し品物形を流す』と。吾人は暫く此言を假りて、神道の本體を形容せんと欲す。

神道は言語の敎へにあらずして無形の大精神なり。故に之を理論に求むべからずして、之を事實に徵すべきのみ。言句に現はれたる形態的敎理は、一定有限の範圍に局促すと雖も、大なる精神は宇宙に磅礴し、物の以て之れを制限するなく、其發して事實に現はるゝや、四圍の狀況に應じて變化し毫も凝滯するなきなり。蓋し社會の活動は寸刻も止まず、人類は常に進步向上の路程に在るが故に、如何に完全無缺を標榜するの敎法と雖も、時代時代の要求に對し、眞個に適合するの難きは、何人も承認する所なるべし。例へばナポレオン法典は、其の當時に在りては、最良の法律と稱せられたりと雖も、最早今日に至りては、大なる支吾撞著あるを免れざると同じく、世界中いづれの敎法も其時代に順應適合せしめんがために、大なる苦心を要しつゝあることは、獨り歷史の證する所なるのみならず、眼前に提供せられたる事實に由りて、確に之を斷言することを得るなり。然るに神道は上にもいふ如く、無形の精神にして、局處に凝著するなく、時代々々の要求に應じ、何物の拘束をも受けざるが故に、之を解釋するに當りても、亦時代的知識を以てするの必要あり。是故に一代の風潮が佛教的旨味に歸せる場合には、自から三諦一實、色心不離の說も出づべく又儒學的色彩の濃厚なる時代には太極兩儀、五行星象の說も出づべく、而して現代の如く科學的研究哲學的思索の盛んなる時代となりては、其の解釋方法の自然に一變すべきは自然の趨勢なりとす。

世に古事記日本紀古語拾遺等の古典、又は所謂五部の書等を以て神道の經典なりと宣傳するものあるも、其陋や笑ふべし。固より記紀諸書に傳ふる所の神話傳說は上代に於ける日本民族の思想を表したるものなるを以て、大精神一部の顯現たるは勿論、人皇以來歷史に入りての事實に至りては、即ち神道顯晦の記錄たるを以て、是等の手引に由りて神道の何物たるを探索するには差支なきも、直ちに之を以て神道其ものゝ全體なり、經典なりと速斷するが如きは、非常の誤謬なり。舊事紀記諸書は姑く學ぶべしと雖も、神道を本として之を見ることきは、是等の古典も、近古の平家物語、太平記、赤穗義士傳、院本、稗史、赤表紙、黃表紙と撰ぶ所なし(其の價値に大小はありとも)況んや神道五部の書の如き、其の當時の神道者流が一家言なるに於いてをや。若夫是等の諸書を以て神道を盡し得べしとせば、所謂神道なるものは、之を骨董舖の店頭に陳列すべきのみ何れの處にか其の活潑々たる精神を求むべきぞ。

然るに翻りて他方面を見渡すに、佛敎には浩瀚なる大藏經のあるあり。基督敎倚なりと雖も、猶新舊兩約の存するあり。後世之を敷衍したるものに至りては、汗牛充棟も啻のみならず。純宗敎ならざる儒敎に於いても、四書五經の典據あるに對比し、我神道の一の憑依すべき神典の存するなきを以て甚しく貧弱なる如く誹謗するものなきにあらざるべし。然り神道の經典は黃卷赤軸にあらず、明々赫々たる天地日月の之れを證するのみ(鍊足の言)是れ實に超絕の位に居り、理事無礙、圓融了々の妙致を現じ來る所以なり。吾人は佛基二敎の如き、其の所依の經典の固定せる、寧ろ發達向上を妨ぐるの嫌なからざるかを疑ふなり。古

## 國本培養論(二)

中井錦城

第二農事の改良を爲すには新法令の發布を要す。即ち其先を耕地擴張に關する件と爲す。朝鮮の水田は百十七萬町步、畑百九十九萬町步にして、荒蕪地の面積十四萬町步と稱するも、耕地內に包含する未墾地及び荒地は、別に總督府の統計に計上せられざるなり。若し此の未墾地及び荒地を積算する時は、其の面積決して僅少ならずと信ず。今や內地に於ける米穀の生産額は以て內地住民の食料を充たすに足らず、殊に本年の如きは、米の在高缺乏せるよりして、全國に所謂米騷動なるものを起すに至れり、而して朝鮮に於ける米穀は最近一千一百四十萬石に上り、其の內四十萬石は優に之を內地に移出するも、朝鮮人向の食料に影響することなしと謂へば、茲に朝鮮の水田を一層擴張したらんには恐く內地の不足米を補充する迄には行かざるも、亦以て大に其の外國米の輸入を防ぐを得べし、されば夫には畑地を水田と變換するは勿論、其の耕地に包含する未墾地及び墾地をも開墾して之れを耕地と爲さゞるべからず、而し之を爲すに、先づ墾地を處分することに關し其未墾地を整理することゝ又一の法令を發布し其實行を規定するの必要を認む。

次は灌漑用水に關する件となす、元來水田たるものは多く肥料を要せざる代りに、米穀の豐凶は一に灌漑用水の潤澤缺乏如何に因る、然るに朝鮮には多く山水路を設置せず、唯天水是に賴むを以て、旱魃の歲は全然米穀の收穫を見る能はざるなり、是を以て朝鮮の水田には是非とも灌漑用水路を通ぜざる可らず、古來朝鮮には處々に狀(朝鮮語ボー)なるものあり、即ち貯水池の謂にして之に依て灌漑用水を供給し、全國の水田是が惠みに依る頗る大なりし、從つて其水田より取立る水利料も亦甚だ多額なりしかば、大院君攝政の時に當つて、是れ好個の財源なりとし途に三百有餘の狀に向つて苛重の租稅を賦課せしより、全國の狀は大抵廢棄に歸し、中には狀の中に水田を作るものあるに至り、爲に米穀の收穫は著しく減少を來せりこゝ、韓國併合後總督府は水利組合に關する法令を改正し、灌漑用水の配給を奬勵したるも、何分其工費を要する多大なるを以て效果を奏するもの尠く、過日全羅北道の某水利組合の如きは遂に大失敗を演じたり、誠に憾むべしと爲す、依て總督府は法令を發し、爾來政府に水利組合を起すを禁じ、彼の狀の修理を始めとし、灌漑用水路の開鑿は、一に之を東洋拓殖會社に委任することゝすべし、斯くて東拓會社は其資金に餘裕あるよりして容易に之に着手するを得て獨占的に是が利益を享受すべし、其他の會社には又總督府より下命あり次第に其用水路を開鑿せざる可からざるの義務を負擔せしむべきなり、一體是等の事業は馬來半島や瓜哇の灌漑水路の如く、政府自ら之に當るべき筈なれども、今に已むを得ず有力なる會社に委任することゝせり、近來總督府は何となく東拓會社を厄介物視するの觀あれど、寧ろ之を朝鮮開發に利用するの巧慧なるに若かず、此の如くせば朝鮮に於ける灌漑用水の配給は却つて速かに成功するや或は圖るべからざるなり。

次に籾種に關する件なりとす、農商工部の役人は知るや知らずや、朝鮮農家の不用意なる水田播種の時に當つて、籾種の不足に苦しむは常にして、已むを得ず應援に混ずる不精選の籾種を播下するものあるに至る、故に總督府は法令を發し、各面に其の水田の地積に應じ、面役場に若干の籾種を貯藏するの義務を負擔せしむべし、斯くせば獨り籾種に不足を告ぐるの虞なきのみならず、又以て籾種の改良を促すを得べし。

最後は蠶種に關する件なりとす、今や蠶種は水原の蠶業試驗所より配付することゝなり居れども、中には又內地より移入するものなきにあらず、此の如きは蠶種區々に亘り、自然繭の價格を低落せしむるに至るべし、故に爾來蠶種子は苛重の關稅を賦課して其移輸入を杜絕し、且又法令を發布し蠶種は悉く蠶業試驗所より配付を仰ぐこととし、以て蠶種を一定すべし。

## [illegible]

[illegible]は殊更に反對せざるべく又假りに[illegible]兵を土國に進め難きて一度土國內に上陸せば向ふ所敵[illegible]能はず縱し[illegible]の道ありとするも[illegible]西部戰場獨軍の形勢は日に非にし[illegible]て聯合軍は目下冲天の意氣を以て[illegible]上其運命は勃國の[illegible]よりも危し[illegible]なく必ず再擧を圖るに至るべく[illegible]べし然れども[illegible]息が今日に至る迄絕對に獨逸內に傳播せざる理由なきを以て勃國今[illegible]提議は或は獨逸が知つて知ら[illegible]隊の士氣を沮喪せしむるに至るべく殊に墺國の如きは其に降伏するなるべきを以て獨軍の敗退が豫因なりとせば勃國の脫退を未前に防止するに努めたるべしと信ぜらる

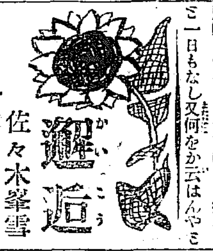
### ▲聲息相通

勃國脫退後は佛伊塞希軍は依然北進を繼續すべく聯合軍も亦之を援助して塞國恢復、墺國進入の作戰を講ずべし斯くても尙ほ敵は有力なる獨軍の救援を[illegible]

本紙定價　壹ヶ月七拾五錢▲六ヶ月前金四圓▲壹ヶ年前金八圓(郵稅共)
廣告料金　五號十五字詰一行一圓五十錢(特別)▲二號七字詰同二圓▲四號九字詰同一圓▲六號十七字詰一圓五十錢
發行兼編輯人　奧田直毅
印刷人　小川三之介
發行所　京城太平通一丁目　京城日報社
電話　編輯局・營業局[illegible]番
振替　[illegible]

## 支那新聞の原內閣評

上海マーキュリー紙曰く日本の新內閣は日本に於ける最初の政黨內閣と云ふを得可し原總理は政友會總裁にして陸海外務以外の各大臣は皆政友會の重要人物なるのみならず內田外相も政友會員として見られし人物なり實に是れ日本政界の一新紀元を開けりと言ふ可しと申く報曰中日二つながら武人內閣なりしが今や寺內內閣遂に倒れ段內閣に先立ても茲に於て政治の正道を見る可きなり讓るもの陋劣の舉動を爲さず受くる者感情の爭ひを爲さず政局の進步を妨げず吾國事を以て重しとし相推ふも誤解なく德を傷つけず野に下る者ともに去り殘るもの袂を連ねて留り政治未だ曾て停滯せず又大局に影響せず是れ所謂政治の要道なり我國政變既に七年政治曾て軌道に從ふこと一日もなし又何をか云はんやと



## 邂逅

佐々木峯雪

### 虐待(十二)

『叔父さんお酒買つて來ました』

庄吉は暗い路次の表口で斯う云つて、裡に這入ると酒の壜と鯖の包物をそれへ出した。

『やい庄坊、今頃迄何う爲てやがつたんだい、早う此處へ出せ此處へ』と暗闇の中に寢腹這うて、ガン〳〵と惣兵衛は口汚く云つた。

『遲うなつて濟みません』と聲のする方へ酒と肴を押しやつて『叔父さんお酒此處に置きます』

『鯖の切れ目買つて來たかい』

『買つて來ました』

『そいつア上出來ぢや、此處へ出せ〳〵』と床をガン〳〵と拳で叩いた。

『叔父さん此處に置きました、分かりませんか』

『やいそんなものが分らんで何うするんだい、乃公目は見えんごと』と竹の皮包みを手探りに拾ひ上げて

『さ、庄坊わりや早く燈火を點けて夕飯の拵へをするんだい』

惣兵衛は酒の香を嗅ぐといくらか機嫌が和いだ、暗がりの中に竹の皮包を解く音がべり〳〵として續いて壜の口から酒を口附けに飮む音が、がく〳〵と聞ゑて來る。

『いやもう、いつ飮んでも好い匂ひだ』と舌皷もする。

『些とは叔父さんの機嫌も和いだらしい』

庄吉は喜びの色を浮べて洋燈の側へ寄つて火を點した、惡魔でも潛んで居さうであつた暗闇も、庄吉の點した洋燈の光に征せられて壁つたながらも四邊を照した。

襞の落ちた見すぼらしい狹い室に、閾から閾へ蜘蛛が巢を掛けて、埃で白うなつた床の上に、缺けたコンロに土鍋が懸けて、其横手に緣の缺けた茶碗が二ツ、入口が一所で小窓が一つ、其小窓の下に惣兵衛は焦げ茶色の襤の片を敷いて、側には晝から飮み散らし食ひ散らした酒の跡が、淡い香りと共に混雜して居た。

惣兵衛は六十の坂を三つ四つ越した、額の狹い頰の高く飛び上つた、口の鋭い頤の突き出た老爺であつた、遂のやうな長い亂れた半白髮、見るから根性の惡さうな老爺であつた、唯さへ赤黑い顏を酒に彩つて、目の中は朱を注ぎ込んだやうに充血して居る。

『おい庄坊、われも正面から乃公の御馳走を見ちや喰たからうが、子供が小さい中から御馳走喰つちや長生が出來無い、年寄るといくら喰つても腦ら無いけどな』

惣兵衛は斯う云ひながら酒を一口呑を一口、にやり〳〵と笑つて居る。

『はい………』庄吉は惣兵衛の獨りで飮み獨りで食ふ態を見詰て居たが、斯う云はれると急に悲しくなつて、目は淚で一杯になつた。

苦勞に疲れた庄吉の顏、それに淡い洋燈の光が射して、淚の目が哀れに光つた。

惣兵衛はやがて側の貨入を引き寄せて

『庄坊、一寸燗すを此處へくれ』

『はい』庄吉は返事をしたが躊躇した

『早う出せつてことよ』

『はい』と淚を拭つてそれへ出した。

『やい〳〵』と惣兵衛は口を歪めて『これや何うしやがつたんだい、わりや又乃公の云ふ事を聞きやがら無いな』

…………

『こら、わりや何うしてそれほど迄に乃公の云ふ事を聽きやがるんだい、誰がお金を出して燒ずを買つて來いと云つたい、誰が』と筋張つた手をぬつと伸ばして、首垂れて居る庄吉の襟髮際を攫んで、ずる〳〵と手許へ引いた。

『叔父さん堪忍して………』

『堪忍も糞もあるもんかい、わりや何處まで乃公を踏み付けやがるんだい、こん畜生、さ、われの頭が碎けるか、乃公の腕節が折れるかまで、撲つてやるから御う思ひやがれ』

『堪忍して下さい』堪忍して………』

『馬鹿吐け、今夜ちふ今夜は、我慢も破れたし、心棒も折れた、是から叩いて叩き殺してやらうわ』

中秋分韻得眞　松田學鷗

喚將嘉客詠雲鬢。去來雲際倘詩人。多情月姉揶揄甚。漸到中天始現眞。

中秋分韻得褒　關正若

詩人佳節苦吟難。況又良辰並二難。詩隨中秋前日惜。中秋無月君詩難。

學鷗日。奇想天來。何嘆無詩哉

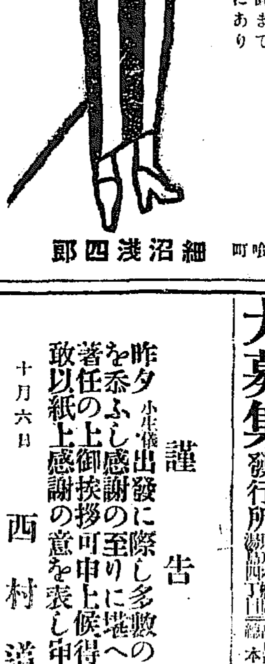

# 新時代

言論界の權威　雜誌中の雜誌

每月一回一日發行　創刊一周年發展大記念號

新聞紙の迫害を被むる者は政府たり政黨たり個人たり團體たるを問はず擧つて本誌に來れ本誌は彼等の橫暴を正す可く社會に提供されたる共同機關なり
矜持は漸次新聞本誌廣告の揭載を拒絕し始めたり今後本誌廣告が全然新聞紙上に現はれざる時は本誌の活躍最高潮を天下に豫告す

現代は如何なる偉人を要求する乎
斯る共同研究は偉人を生む時勢を作り時勢を作る偉人を出す指導たり是本提案の理由　總て本題に共鳴されし雜誌諸名士の賜
現代の要求する偉人　後藤男爵 / 現代の綜合的大偉人　三井甲之 / 徹底せる鑑識者　中村武羅夫 / 缺陷　室伏高信 / 政治家に翹望　山中峯太郎 / 丈夫　松村介石 / 人物　三宅雪嶺 / 俊秀　一本博士 / 凡人　本間久雄
教界を要する偉人　高島米峰 / 徹底せる大人物　關和知 / 現代の要求する偉人　下中彌三郎 / 英雄政治家　杉田幾尙 / 多數の人　忠上出 / 文壇は何を要求するか　上田博士 / 最も理解ある人物　江口渙 / 現代の人物觀　遠藤博士 / 英雄　一吉田政治
所信に勇猛なる人物　三宅雄二郎 / 偉人は理想を有する大人物　鶴見祐輔 / 意志ある人　谷本博士 / 現代の要求する偉人　忠上田 / 現代の偉人　原口 / 蛇　笹川臨風 / 私の求むる新人　秋田雨雀　與謝野晶子
衆愚に阿る罪　三浦博士
人心調節の上に　近角常觀
特殊部落の精神　若宮卯之助
刀圭界の人物　佛心鬼手
辯護士總まくり　高杉杏園
東京高商出身の人物　加藤盛信
時代大觀　杉中種吉
組上の大阪朝日新聞
吾人の主張は終に法權の發動を促かし發行禁止の利劍彼れに閃めくに以て七月以降の所論か如何に急所を突きしかを知れ！七月號以降十月號迄取網め直接註文は五百組限り四部一圓にて提供す！
帝都大新聞社の組織と其人物
十四大新聞社の組織と其記者及社員千數百名の擔任一日瞭然
創作新體詩及論文壹千圓懸賞募集
政界秘密物語　政權爭奪阿呍の呼吸　城南隱士
如何にして國民の犧牲的精神を喚起せん乎
犧牲の肝要　裁平者　方法　理解
先づ自から燃て上に　燃ゆるが如き心　宇宙の自發的奉仕　社會の神的精神　犧牲の教育に　犧牲就いての
國民の犧牲的精神　國家の宗教　大我の把握　最も國民教育　教育の哲學的基礎
創作　Kの死因　田山花袋
創作　初戀の頃　吉田絃二郎
劇壇魔語　破劇界の秘事
二科展　坂井犀水
秋山晴空漫畫
俳句　池部鈞
每月一回一日發行　定價三十錢　東京市芝區新堀町　新時代社


SSS
進步せる文具店なら！何處の飾窓にも
サンエス萬年筆
實業界にも學事にも軍事にも携はる人も婦人達のバッグにも洽く行渡る模範品
價壹圓八十錢以上拾圓まで全國到る處の文具店にあり
本舖　東京馬喰町　細沼淺四郎

最新刊
最新朝鮮地質鑛產圖
朝鮮總督府鑛務課御調查　定價金八十錢　郵稅金四錢
縱二尺四寸○橫二尺四寸○七色刷○印刷鮮明○校正嚴密○里程表記載
發賣　京城日報代理部

佛教論理學
帝國大學教授文學博士村上專精　東洋大學長文學博士境野黃洋　兩先生共著　價一圓七十錢郵稅八錢
佛教論理學とは即ち因明學のことなり而して印度哲學に於ける因明の地位は恰も西洋哲學に於ける論理學の地位の如し學ぶ者は此の哲學の知識なくして因明學の研究は如何ともし難く而も論理學の智識なくしては到底印度哲學の眞髓に觸るゝ能はざるなり......佛教教理の精髓に味倒することは能はざるなり......此の書を敎養ある諸君に推薦す
發行所　東京小石川原町　丙午出版社
振替東京一五六八六
京城本町二丁目　大阪屋號

小鳥捕用　カスミ網
(極上精糸製)◎其他雁鴨毛網無雙網等種々あり
高さ六尺　橫三間二圓半 / 高さ六尺三尺　橫五間四圓
京城永樂町二丁目　吉備商會　電話二二四番　振替京城四三六番

今！今!!今!!!
十月五日より當分の間
御買上金高
金拾圓以內　壹割引
金拾圓以上　壹割五步引
金參拾圓以內
金參拾圓以上　貳割引
▲但し現金の事木綿物は右步合の半額引
京城明治町　唐川呉服店　電話二六一番

大正八年御壽寶
大正八年農家曆
一冊郵稅共十錢　二冊郵稅共二十錢
愈出た何人も明年の開運法(御壽寶は國家の氣運農作豐凶各人の運氣吉凶)は本書に依て決せよ　農家曆は天文氣候暴風雨蝗蟲等豫知表良米作法等最も必要なる事柄を網羅す　特約販賣人一冊限求む同時に照會あれ
大募集
發行所　東京本鄉區湯島四丁目　神誠館


謹告

小生儀出發に際し多數の御見送を忝ふし感謝の至りに堪へず何れ著任の上御挨拶可申上候得共不取敢以紙上感謝の意を表し申候敬白

十月六日

西村道彦

## ◇國際連盟問題 米大統領の演説英輿論の贊認を得

倫敦發電所 著電＝九月二十七日紐育に於けるウヰルソン大統領の演説中「國際連盟の創設を以て戰爭平和會議の嚆矢たらしむ可し」との主張は漸次英國輿論の贊認を得つゝあり尚三十日ギルドホールに開かれたる新軍事公債募集披露會場に於てバルフオア氏は之に贊弄し敷衍して一場の演説を爲せるが氏は「國際連盟の創設には現在の非行を矯正し將來同盟國間に戰爭の誘發す可き禍根を殘さゞる様國際領土の安排を必要なりとし殊に獨逸の非行を擧げ遺憾なき國際連盟の實現を可能ならしむるには完全なる戰勝を獲得すること絶對必要なり」と述べ更に「獨逸が縱に單獨西部に於て憲法上政府の改正を行ひ國際連盟創設に參加し之れにて其悔悟心を吾人に信ぜしめんとするが如きは痴人の夢を説くが如きものと認む」と附言せり(東京電報)

## ◇獨墺講和協約締結か

ブダペストよりの報道に曰く墺國維也納に開かれし御前會議の後墺匈國政府は左の聲明を爲せり墺匈國は其の保全を期する爲め今猶出來得る限り速かに講和に關し獨逸と協約を締結せんと努力し居れりと(アムステルダム電報)

## ◇獨軍退却繼續

獨軍は今やフランダース方面より退却しつゝあるが此退却は頓て獨軍が白耳義より撤退する第一歩なりと信ぜらる(倫敦電報)

## ◇土耳其休戰を乞ふ

信頼す可き報道に依れば土耳其は既に休戰を乞へりと(海牙電報)

## ◇對勃戰鬪終熄

勃牙利に對する聯合國の戰鬪行爲は九月三十日正午を以て終熄せり(巴里電報)

## ◇勃牙利降伏効果

伯林フオシツシエ、ツアイツング紙は勃牙利の降伏より生ず可き結果を左の如く豫言せり(紐育電報)

(一)土耳其も之に習ふ可し(二)羅馬尼は再び聯合國に合し戰爭す可し(三)ユウゴウスラブ族は聯合國の援助を受け墺太利に敵對す可し(四)墺太利は多分降伏し可し

## ◇土國講和提議乎

ツウリヒよりのデーリー、ニユース特派員發電によれば土耳其政府は聯合國に對し講和を提議せんとの意思ある旨を獨逸に通牒せり獨逸は右通牒に對し半ば土國を威嚇すると同時に半ば是を贊成するが如き語調を以て長文の回答を送れりとされば土國は近く決斷すべし(倫敦電報)

## ◇獨逸新宰相任命

獨紙ミツタツハツアイツングの報道する所によればバーデンのマツクス公はヘルトリング伯の後を襲ひ獨逸宰相に任命されたり副宰相フオンパイエルは留任すと(コペンハーゲン電報)

## ◇獨新宰相の政綱

ベルリーナ、ターゲブラツト(獨紙)報道に據れば新宰相は全然議會多數派に依り内閣組織す可く其の政綱は多數派の主張を指示し或點に於ては後者よりも強烈なり同政綱は一般に對し獨逸國民に平和を與へんとする觀念を表示するものなり(東京特電)

## ◇英軍ダマスカス占領

アレンビイ將軍はパレスタインのダマスカスを占領せり(倫敦電報)

附記 ダマスカスは亞細亞土耳其シリヤの都會にして地中海要津ベイルトに鐵道通じ商業も盛大、古來織物刀劍を以て名あり、人口約三十五萬

## ◇内地月末金融

[illegible]すに至れり爲替資金の轉換も手傳ひ大正[illegible]普通物一錢五厘乃至一錢五[illegible]情に精通せる方なれば積極主義を[illegible]探るにしても消極主義を探るにし[illegible]影響を感ぜず唯日銀利上以後預金者は兎角預金の利上を強要するも[illegible]急を來す可きを以て此問題に就て[illegible]

## ◇愛蘭募兵不振

愛蘭に於いて九月三十日迄に募兵に應じたる者兵役義務者五萬人中八千にも達せず這般の形勢頗る緊張し今にも局面急轉直下せんとす愛蘭總督フレンチ將軍及び同宰務大臣ショウト氏に對する非難の聲高し(倫敦電報)

## ◇ウフア統一政府宣言

ウフアの全露統一政府は全露國民に左の宣言を發したり

國民の意思を基礎とせる全露國復興を唯一目的とし過激派獨墺等内外の敵を一掃し獨墺の爲めに占領されたる土地を回復し露獨單獨講和條約を破棄し平和を齎さん事を期す此の目的の爲めには先づ國家復興に全力を盡くす可く地理上の状況により地方自治を許すべし其他經濟の復興に就き述べ各州自治體代表者協議會に各署集せり(浦鹽電)

## ◇全露政府權力承認

西伯利州議會は全露政府の權力承認を發表せり(哈爾賓電報)

## ◇ウフア憲法會議開催

ウフアに於いて九月二十六日憲法會議開かれウオルクイスキー議長に選擧され政府の名を以てアウクセンチエフは歡迎の辭を述べ烏拉爾政府、土耳其斯坦政府、各州各黨派代表者の歡迎の辭あり國家最高權力設定の件を最初の討議と定めたり(浦鹽電報)

## ◇馮を政治顧問に

徐世昌氏は馮國璋氏を總統就任後總統府最高政治顧問に招聘する事となりと(上海特電)

## ◇段内閣員留任か

段總理辭職と共に閣員全部辭表提出に決し居れるが期日は十月十日徐世昌氏就任後にして徐氏は閣員に留任を勸告す可く若し内閣員は多分留任する事と爲る可し但し陸外交總長は病の爲め留任せず駐日公使を任たる可しと(北京電報)

## ◇南方臨時總統選擧說

廣東國會は南方の臨時總統選擧を爲し解散さる可しとの噂あり國會議員は其の人選の如何を說明す可く政務總裁に要求せり(香港電報)

## ◇軍需工業動員法施行

二日勅令を以て軍需工業動員法を朝鮮、臺灣、樺太に施行し關東州及び南滿鐵道附屬地の軍需工業動員に關しては同法に依る件を公布し即時施行されたり(東京特電)

## ◇日露貿業會社增資決定

對露軍需品供給者以外の貿易業者にして露國に對する債權の決濟不能なる者に對しては其後朝鮮銀行中心となり右同業者等と協議の上現在對露貿易業者にて組織せる日露貿業株式會社の資本金百萬圓を二千萬圓に增資するに決し、增資株式は露國に債權を有する對露貿易業者に全部割當つる事とし增資後の右會社に對しては鮮銀より一定資金を供給する事と成り居れり同會社の目的は(一)對露債權確保(二)對露貿易回復西伯利利源開發

## ◇鐵道院大更迭

五日左の通り辭令あり(東京特電)

鐵道院參事 佐竹三吾

任鐵道院理事(二等)(各通) 鐵道院理事 永井亨

鐵道院經理局長を命ず 中川正左

同運輸局長を命ず 同 佐竹三吾

同監督局長を命ず 中部鐵道管理局長 長尾半平

同總裁官房勤務を命ず 同運輸局長 木下淑夫

同中部鐵道管理局長を命ず

## ◇諸株低落す

二日一層に昂騰し形勢一變を思はしめたる東京株式市場は一日に病み諸株七圓乃至四五圓方低落し平和相場の序幕の如き感ありたり(東京特電)

## ◇川村氏脱會

政友會代議士川村惇氏は二日同會を脱會せり(東京特電)

## ◇辭令

五日左の通り辭令ありたり(東京特電)

朝鮮總督府事務官 和田一郎

度支部理財課長を命ず

にて重役人選も既に決定し居れり(東京特電)

## ◇山縣公訪問

[illegible]は五日午前十一時三十分頃[illegible]に[illegible]を訪問[illegible]辭去したり(東京特電)

## ◇衆議院議長

[illegible]議長[illegible]大岡次官に決定せり(東京特電)

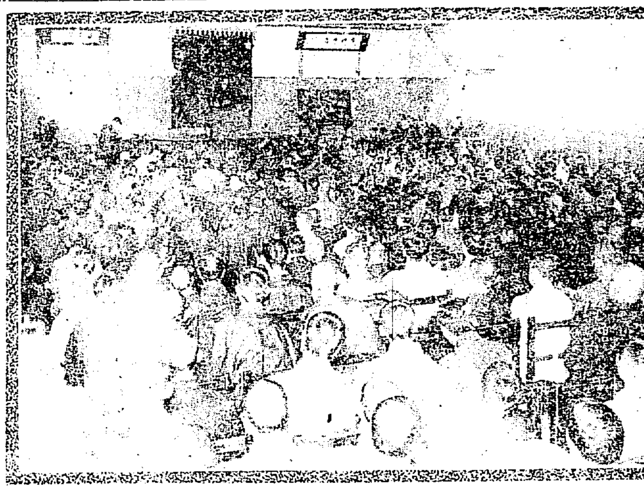
同總理局長 青木周三

同總裁官房[illegible]長を命ず 村井一郎吉

同[illegible] 岡田[illegible]五郎

理事 森本邦治郎

[illegible]休職を命ず



嘉納治五郎氏の講演會 五日の出小學校に於て

## ◎軍司令官巡視

宇都宮軍司令官は五日午前八時山本高級參謀古城副官を從へ歩兵第七十八聯隊及び騎兵隊野砲兵隊等を巡視せり

## ◎兒島司令官招宴

兒島憲兵隊司令官は目下會議の爲め入京中なる管内各憲兵隊隊長を五日午後七時朝鮮ホテルに招待し晩餐會を催せり

## ◎鮮銀員轉勤

鮮銀國庫課長小倉孝吉氏外數名の書記は朝鮮殖産銀行に入る事となり此程何れも鮮銀を退職したり

## ◎教員試驗施行

十月八日より開始せらるべき小學校普通學校教員試驗は京城府公洞高等普通學校附屬普通學校に於て施行せらるべく豫定したるが受驗者は七日午前中に總督府學務局に出頭受驗票を受領すべしと

## 人事消息

▲佐藤[illegible]部長 十月十六日より東京に於て開催さる可き臨時脚氣病調査會出席のため十日出發東上

▲日下義雄氏(第一銀行取締役) 五日夜入京朝鮮ホテルへ

▲中村謙五郎氏(與南部海運) 五日夜入京天眞樓へ

▲南居之助氏(鈴木商店員) 同上

▲原鐵之助氏(朝鮮製紙專務) 同上

▲駒澤佐一郎氏(大正興業取締役) 同

上京錦へ

▲本田幸介氏(水原勸業模範場長) 同上

▲賀田金三郎氏(東京實業家) 同上

▲前田好雄氏(東京[illegible]所主任) 同上

▲杉原新太郎氏(同元山主任) 同上

▲奥村英一氏(同群山主任) 同上

▲外山石英氏(同小樽主任) 同上

## 我國民活動の能率を增進せしむる方法(一) 嘉納氏の講演

別項の如く五日午後の出小學校に於ける講演會席上東京高師校長嘉納治五郎氏の試みられし講演は頗る適切且有益なるものなりしを以て其要領を記載して讀者の參考に供せん

今日此席に於て私に意見を述べるやうにとの御依頼であるけれども、さて何う云ふ事を申上げて宜いか別に考へても居らぬ譯であるが、今日の形勢として何より大切なことは國民が將來如何にして已の力を最も有效に働かして國運の勃興文明の進歩の上に充分なる成績を擧げるかと云ふ問題であらう、是が實に刻下の急務中の急務であると私は信ずるのである。此問題に關聯して平素自分の考へて居ることども聊か述べて見度いと思ふ。私は大正元年から二年に亘つて歐米諸國を巡遊した、それは旅行であつたが此巡遊中に於て一二深く感じた事柄がある、何であるかと云ふと第一に歐羅巴の各國に在つては人種的の競爭が劇しく行はれて居ることである。第二には人種的競爭のある一面に於て商工業上の發展即ち

### 國力伸張の競爭

が實に猛烈で是が相錯綜し或場合には一方が一方を打消すと云ふ様な現象を呈することもある。色々精密に論ずれば斯様に簡單に云ひ做す譯には參らぬが大體に於て右の二つの競爭が現在世界に大いなる影響を及ぼして居ると云ふことは著しい事實である。國力の發展の上に於て各國が力を競ふと云ふことは私の説明を俟たずして既に御承知のことで目下歐洲大戰亂に就て英吉利と獨逸との關係が如何に影響してゐるか是亦贅論する迄も無いのである。他の一面歐洲の社會に於ける人種的の競爭に關しても夙に御承知ではあらうが、私の切實に感じた二三の例を擧げて其事實を確め度いと思ふ

### 墺太利匈牙利に

私が滯在して居た時分のこと、墺太利人對匈牙利人の感情殊に墺國人の匈國人に對するよりも匈國人の墺國人に對する感情が甚だ險惡なる狀態に在ることを認めた。議會に於ても問題の起る毎に屢々此氣勢が現はれる。個人としての交際にあつても其間に斯う云ふ傾向は爭はれないと認められた。然らば何故仲の善くない墺太利と匈牙利が結合して一國となつて居るかと云へば其處に又理由があるのである。即ち兩方が各獨立して分離して仕舞へばお互に一つの微弱な國となる、從つて其國が激烈なる競爭場裡に立つことが出來ない、茲に於て

### 匈牙利も墺國は

嫌ひで〳〵仕様がないのだけれども矢張り墺國に附いて居る譯である。一寸話が後戻りをするが元來私の此歐洲旅行の目的は彼のオリムピック大會に日本の委員として行つたのである。さうすると同じく此大會にボヘミヤのプラーグから一人の文學者がボヘミヤを代表する委員として來て居た。

## 鳥瞰雜俎

▲獨逸が戰時に於ける贓品の數々を計へ上げると大したものだ▲無償等價・戰時新材料、食糧、工業原料、工業用、戰時秘藏家具、美術品の賣却課、金銀貨、下掠保品の掠取など占領地域が廣大なだけに其の利得も夥しいものだ▲戰費分擔額を計算すると獨逸の百に對し佛國は百三十八英國は百七十四である▲獨逸人の負擔額の輕いのは右の如き贓品で埋合はせるからだ▲無賠償の講和などやらうものなら聯合國は結局大損である▲何處の國でも出征兵を送るのは頗る盛んであるが米國は一倍盛んな相な▲例のヤンキーガール連が大騷ぎで送るから其ら大したものである▲ペンシルヴアニアのスクラントン市などでは娘連を繰出してキッスを浴びせて居た▲處が兵士の貽方を受け持つ赤十字看護婦連がまさか嬉けた譯でもあるまいが仕事の妨害になると不服を唱へて市長に訴へ出た▲其から市長は一切キッス送別を禁止したとは馬鹿々々しい▲新藏相の高橋是清君は國家財政上には積極方針を持してゐるらしいが遊びの方では意外の消極主義なんだから面白い▲其昔君が一騎當千の勇士連と柳橋邊に出沒した時代などは所謂消極主義に依て『ほんものより素人染たのを』なんて註文したものだ▲此の主義は今にも一貫してゐるものと見え所々で大分參らさるる事があるとか

## ◇新醫學博士

埼玉縣平民 岡田清三郎

[illegible]本副會頭[illegible]鮮商會議所[illegible]せる京城商業會議所[illegible]論文を[illegible]

## 仁川期米

▲五日後場 大阪及各地電報未着にて先二十六圓[illegible]

| | | |
|---|---|---|
| 先 | 二十六圓九十九錢 | 九十九錢 |
| 中 | 二十六圓九十九錢 | 二十六圓九十八錢 |
| 當 | 二十五圓九十四錢 | 二十五圓九十八錢 |


# 洛陽堂圖書秋期大特賣

新秋讀書の候を期し江湖各位平素の御眷顧に酬ゆる爲め弊堂發兌圖書(生命論)以下百七十四點特價提供仕候間何卒倍舊御註文の榮を賜り度願上候期間は九月一日より十月二十日迄に御座候追而紙價暴騰の爲め絶版又は定價改正と成る可き者少なからず候間此際至急御申込被下度奉願候(詳細目錄御申込次第進呈)

| 書名 | 著者 | 定價 | 特價 | 郵税 |
|---|---|---|---|---|
| 生命論 | 永井潛 | 四、五〇 | 四、〇〇 | 一二 |
| 生物學と哲學との境 | 永井潛 | 四、五〇 | 四、〇〇 | 一二 |
| 神秘論 | 小酒井光次 | 一、九〇 | 一、五〇 | 一二 |
| 我等何を爲すべき乎 | トルストイ | 二、〇〇 | 一、六〇 | 八 |
| 命を何とすべき乎 | トルストイ | 一、七〇 | 一、三〇 | 八 |
| 日本西教史(上巻) | 太政官翻譯 | 三、〇〇 | 二、四〇 | 一六 |
| 日本西教史(下巻) | 太政官翻譯 | 三、〇〇 | 二、四〇 | 一六 |
| 哲理と人生 | 帆足理一郎 | 一、五〇 | 一、二〇 | 八 |
| ダンテ 地獄篇 | 中山昌樹 | 一、九〇 | 一、五五 | 一二 |
| ダンテ 煉獄篇 | 中山昌樹 | 一、九〇 | 一、五五 | 一二 |
| ダンテ 天國篇 | 中山昌樹 | 一、九〇 | 一、五五 | 一二 |
| 神曲叙事 平和の佛教 | 藤本慶祐 | 一、六〇 | 一、二八 | 八 |
| アッシジの聖フランチェスコ | 中山昌樹譯 | 一、八〇 | 一、四五 | 一二 |
| 心理學より見たる日蓮上人 | 高島平三郎 | 三、〇〇 | 一、六〇 | 一二 |
| 悲哀より歡喜まで | 畔上賢造 | 一、二〇 | 九〇 | 八 |
| 靈驗錄 | 栗原基 | 一、三〇 | 九〇 | 八 |
| 宗教と人生 | 帆足理一郎 | 一、六〇 | 一、三〇 | 八 |
| 金剛心 | 富士川游 | 五〇 | 四〇 | 四 |
| 哲學汎論 | 木下四郎 | 一、二〇 | 九〇 | 八 |
| 忠義の哲學 | ロイス | 一、三〇 | 一、〇〇 | 八 |
| 彼が三十の時(小説) | 武者小路實篤 | 一、五〇 | 一、二〇 | 一二 |
| 向日葵(小説) | 同 | 一、五〇 | 一、二〇 | 一二 |
| 後に來る者に(脚本) | 同 | 一、六〇 | 一、二〇 | 一二 |
| 小さき運命(感想小説) | 同 | 一、二〇 | 九六 | 八 |
| 小説 或る青年の夢 | 同 | 一、四〇 | 一、一二 | 八 |
| 留女(小説) | 志賀直哉 | 一、〇〇 | 八〇 | 八 |
| 彼等の運命(長篇小説) | 長與善郎 | 一、九〇 | 一、六〇 | 一二 |
| ノア(脚本小説) | ゴーガン | 一、三〇 | 一、〇〇 | 八 |
| 死の舞踏 | ストリンドベルヒ | 一、六〇 | 一、二〇 | 八 |
| 擬人の傳 | 同 | 一、〇〇 | 八〇 | 八 |
| ハイネの生涯 | 遠藤吉之助 | 一、四〇 | 一、〇〇 | 八 |
| ロマンの藝術 | 吉田順和 | 一、六〇 | 一、二〇 | 八 |
| ヘベルの作 | 城一助 | 一、三〇 | 九〇 | 八 |
| ドストイエフスキイ集 | 新 | 一、三〇 | 九〇 | 八 |
| 所有土地臺帳 | 松本恒吉 | 一、二〇 | 一、〇〇 | 八 |
| 小作の下に | 同 | 七〇 | 六〇 | 四 |
| 軍艦旗の下に | 山崎米三郎 | 八〇 | 六〇 | 四 |
| 今昔船物語 | 若林欽 | 一、九〇 | 一、五〇 | 八 |
| 青島から飛び出して | アリッショー | 一、二〇 | 八〇 | 八 |
| 文藝復興の三大藝術家 | 中山昌樹 | 一、〇〇 | 八〇 | 八 |
| 自然科學者としてのゲーテ | 小川政修 | 一、〇〇 | 七〇 | 八 |
| 近世の美術 | 木村荘八 | 一、三〇 | 七〇 | 八 |
| ゴオホの手紙 | 同 | 一、三〇 | 九〇 | 八 |
| 愛ある所に神あり | トルストイ | 一、三〇 | 一、二〇 | 四 |
| 殺す者の懺悔 | 同 | 一、三〇 | 一、二〇 | 四 |
| 三人の隱者 | 同 | 一、三〇 | 一、二〇 | 四 |
| 侵入 | 同 | 一、三〇 | 一、二〇 | 四 |
| 村の三日 | 同 | 一、三〇 | 一、二〇 | 四 |
| コルネイ・ヴァシリエフ | 同 | 一、三〇 | 一、二〇 | 四 |
| 兒童を理解せよ | 高島平三郎 | 一、三〇 | 一、二五 | 四 |
| 心の百話 | 同 | 一、〇〇 | 四〇 | 四 |
| 女兒の一日一善 | 山本瀧之助 | 一、三〇 | 五〇 | 四 |
| 一日一訓 | 同 | 七〇 | 五〇 | 四 |
| 報徳修養講話 | 花田仲之助 | 一、二〇 | 九〇 | 八 |
| 教育兒童の期待 | 留岡幸助 | 一、三〇 | 三〇 | 八 |
| 小兒の健康 | 稻葉誠一 | 五〇 | 五〇 | 八 |
| 奥さまかた | 福田恆存 | 六〇 | 五〇 | 四 |
| 涙の女 | ヴエルキエ | 七〇 | 三〇 | 八 |
| 動物の智 | 洛陽堂編輯部 | 一、四五 | 三〇 | 八 |
| 少女の赤い夢 | 吉屋信子 | 六五 | 四五 | 六 |
| 物語第二集 又逢ふ日まで | 上澤謙二 | 四〇 | 三〇 | 四 |
| 物語第一集 夜半にひとり | 同 | 四〇 | 三〇 | 四 |
| 模範日記 | 山本瀧之助 | 四〇 | 三〇 | 四 |
| 近代音樂家評傳 | ロマン・ローラン | 一、四〇 | 一、〇〇 | 八 |
| ベエトウヴエンとミレエ | ロマン・ローラン | 一、五〇 | 一、二〇 | 八 |
| 文學に現はれたる我國民思想の研究 武士文學の時代 | 津田左右吉 | 三、五〇 | 二、九〇 | 二 |
| 同 貴族文學の時代 | 津田左右吉 | 三、〇〇 | 二、五〇 | 二 |
| 茶話 | 薄田泣菫 | 七五 | 六〇 | 四 |
| 泰西の繪畫及彫刻 第一巻 | 洛陽堂編纂 | 三、〇〇 | 二、五〇 | 二 |
| 同 第二巻 | 同 | 三、〇〇 | 二、五〇 | 二 |
| 同 第三巻 | 同 | 三、〇〇 | 二、五〇 | 二 |
| 同 第四巻 | 同 | 三、〇〇 | 二、五〇 | 二 |
| 同 彫刻篇 | 同 | 三、〇〇 | 二、五〇 | 二 |
| 詩集 初夏の夢 | 越國三郎作 | 一、〇〇 | 六〇 | 八 |

| 書名 | 著者 | 定價 | 特價 | 郵税 |
|---|---|---|---|---|
| 土の叫び地の囁き | 加藤一夫 | 一、五〇 | 一、〇〇 | 八 |
| 教育上に應用したる兒童研究 | 高島平三郎 | 三、三〇 | 二、八〇 | 二 |
| 家庭と家庭教育 | 同 | 一、四〇 | 一、二〇 | 八 |
| 婦人の生涯 | 同 | 一、〇〇 | 八五 | 八 |
| 精神修養逸話の泉 第一篇 | 同 | 一、三〇 | 一、〇〇 | 八 |
| 修養逸話の泉 第二篇 | 同 | 一、五〇 | 一、二五 | 八 |
| 怒るな働け | 篠悦孝子 | 一、二〇 | 九六 | 八 |
| 若き婦人の行くべき道 | 沼田笠峰 | 一、八〇 | 一、四〇 | 八 |
| 一日一孝 | 山本瀧之助 | 四五 | 三六 | 四 |
| 通俗兒童保護の新研究 | 石川弘 | 六〇 | 四〇 | 六 |
| 兒童保護の新研究 | 村準一 | 一、三〇 | 一、〇〇 | 六 |
| 不愛兒の死 | 河合三郎 | 一、二〇 | 九六 | 八 |
| 不用意の招く死 | 竹中繁次郎 | 七〇 | 五〇 | 八 |
| 法律病の[illegible] | 同 | 七〇 | 五〇 | 八 |
| 早起 | 山本瀧之助 | 七五 | 六〇 | 六 |
| 修養歌日訓 | 連賢長 | 一、四〇 | 一、〇〇 | 六 |
| 面白き科學の話 | 若林欽 | 一、五〇 | 一、二〇 | 八 |
| 海の自然科學 | 同 | 一、六〇 | 一、二八 | 八 |
| 世界自然科學史 | ギュンター | 二、五〇 | 二、〇〇 | 二 |
| 女教員の眞相及其の本領 | 後藤香 | 一、二〇 | 一、〇〇 | 二 |
| トルストイの一日一想 | 加藤一夫 | 一、一〇 | 九〇 | 八 |
| 子供の一日一話(一月より五月まで) | 田村直臣 | 各四五 | 三〇 | 六 |
| 子供の五十二の礎 | 同 | 七五 | 五〇 | 六 |
| 子供の心 | 高崎能樹 | 七五 | 六〇 | 六 |
| 信仰の話 | 高橋千代藏 | 四五 | 三五 | 四 |
| 修養の寺 | 同 | 四五 | 三五 | 四 |
| 優良村巡り | 中川望 | 一、五〇 | 一、二五 | 二 |
| 地方自治と娛樂 | 山本瀧之助 | 九〇 | 七五 | 八 |
| 地方青年團の現在及將來 | 佐上信一 | 一、八〇 | 一、四〇 | 八 |
| 農村の改善 | 天野藤男 | 一、八〇 | 一、四〇 | 八 |
| 農村社會學 | 小河原忠三郎 | 二、五〇 | 一、九〇 | 三 |
| 農村處女會の組織及指導 | 天野藤男 | 一、〇〇 | 九〇 | 八 |
| 農村の話 | 石川弘 | 七〇 | 七〇 | 八 |
| 農村記事 | 井上龜五郎 | 五〇 | 四〇 | 四 |
| 大戰と農村 | 高橋淡水 | 三〇 | 三〇 | 四 |
| 農村經營の理想 | 杉山元次郎 | 一、五〇 | 七五〇 | 八 |
| 農村經營の實際 | 同 | 一、七〇 | 四七 | 六 |
| 青年夜學讀本 | 高山秀雄 | 三〇 | 二五 | 四 |
| 日本農業道德前篇(後篇) | 同 | 三〇 | 二五 | 四 |
| 産業の本國 | 武居 | 七〇 | 三五 | 八 |
| 英國の農業 | 桝本卯平 | 七〇 | 四〇 | 八 |
| 日本産業大地誌 | 吉田武居 | 二、五〇 | 二、〇〇 | 一六 |
| 地方生活論 | 多木久吉 | 七〇 | 六〇 | 二 |
| 農村下水利用論 | 尻稻次郎 | 五〇 | 四〇 | 二 |
| 泰西に於ける自治民育美談 | 生江孝之 | 一、三〇 | 九〇 | 二 |
| 田園趣味 | 天野藤男 | 一、一〇 | 八八 | 八 |
| 都市より田園へ | 同 | 一、〇〇 | 八〇 | 八 |
| 花の四季 | 同 | 一、二〇 | 六〇 | 八 |
| 趣味の田園生活 | 同 | 一、三〇 | 八〇 | 八 |
| 自然と人生 | 中村秋人 | 七〇 | 四〇 | 八 |
| 小村壽太郎 | 桝本卯平 | 二、五〇 | 二、〇〇 | 六 |
| 獨逸國民性の新研究 | 同 | 一、三〇 | 七〇 | 二 |
| 米國國民性の研究 | 老川茂三 | 一、三〇 | 七〇 | 二 |
| 戰後の實業家 | 大塚三郎 | 一、五〇 | 一、二〇 | 二 |
| 深き生命の基礎 | 小野一彌 | 九〇 | 二〇 | 八 |
| 自然の文明 | 中村翠 | 五〇 | 二〇 | 六 |
| 農村青年の實用文 | 本多繁次郎 | 五〇 | 四〇 | 八 |
| 牛乳の現象 | 竹中繁次郎 | 六〇 | 五〇 | 八 |
| 現代の傾向と心的革命 | 高島平三郎 | 九〇 | 九〇 | 八 |
| 新案料理法 | 若林欽 | 八〇 | 五〇 | 八 |
| 我國民性の海 | 山崎米三郎 | 八〇 | 五〇 | 六 |
| 人生二百年 | 渡邊霞亭 | 一、五〇 | 九〇 | 八 |
| 誠の道 | 兒玉昌 | 一、二〇 | 九〇 | 二 |
| 論理及人類 | 同 | 七〇 | 三五 | 八 |
| 藝術の理想 | 赤木桁平 | 八〇 | 六〇 | 八 |
| 新しき理想主義 | 中澤臨川 | 三〇 | 八〇 | 八 |
| タンテの生涯 | 山昌樹 | 二〇 | 八〇 | 八 |
| 耶蘇傳 | 上田 | 二〇 | 五〇 | 八 |
| トルストイ民話集 | トルストイ | 一、〇〇 | 九〇 | 八 |
| 農業民 | 同 | 七〇 | 五六 | 六 |

發行所 東京市麴町區平河町五丁目 洛陽堂 振替口座東京二〇九一四

大阪屋號書房(朝鮮賣捌) 日韓書房

[illegible]ありしため他日に[illegible]四億二千二百萬圓、兌換券發行高[illegible]八億六千五百萬圓に激増したるを以て制限外の如き九千百萬圓を示[illegible]

[illegible]當座金の需要ありしかばコール歩合は翌日拂一錢六厘乃至一錢六厘五毛、無條件一錢五厘乃至二錢[illegible]

[illegible]内閣成立した[illegible]政經濟方針の具體的に知り得可きものなきも藏相に高橋男、農相に山本氏拜命し兩氏共に經濟界の實[illegible]

[illegible]に放漫の方針に出づるこご無かる可しこして大體に於て樂觀を以て迎へ金融市場は之が爲めに別段の[illegible]

## ◇獨外相辭表提出

獨逸外相ヒンツエは辭表を提出せり(アムステルダム電報)

[illegible]に決したり(東京特電)

東京帝國大學醫院入澤內科助手 埼玉縣士族 松岡平作

東京帝國大學醫科大學卒業

[illegible]、あり

[illegible]天長節[illegible]等の各地を視察しつ[illegible]

## ◎繭屋殺の兇漢 都野川の身柄

### 嚴重なる警護の下に……△ 五日夜到着す 自動車で直ぐ本町署へ

繭屋殺し!!繭屋殺し!!聞いたゞけでも慄こする兇惡無比の犯人都野川義雄は小松警部及び兩刑事の嚴重な警護の下に五日夜南大門驛着の列車で歸京した一行は二日朝大阪を出發したので當り前ならば三日夜南大門着の筈であつたが途中萬一を慮つて夜陰の護送を見合せ下關こ釜山で各一泊した爲め道中が意外に暇取つたのである犯人到着の日時は其筋で秘密にした甲斐もなく五日の夜の南大門は實に物凄い程の見物であつた

### ▼釜山の犯人 雨をも厭はず 素晴しい見物

『今日は來る』『今日何時の汽車でキット歸つて來る』なごこ數日前から澤山な人を騷がせては待ち呆けを喰はせ彌が上にも人氣を高めた極惡犯人繭商殺し都野川義雄は愈四日夜入港の關釜連絡船博愛丸で釜山に著いた乘客が全部下船して仕舞ふこ都野川は小松警部及び二刑事に護られつつ縮緬の袷に同じ銘仙羽織を着し黑の中折帽を

◆目深く 冠つて棧橋に降り立つた『ソレ犯人が來た』こ折柄の雨をも厭はず待ち構へて居た見物人は四方八方から雪崩を打つて押し寄する都野川は一身に集まる群衆の視線こ胸中の煩悶に堪へざるもの、如く眉ざめたる面上一種云ふべからざる悲痛の色を湛へて居た其處へ第十四號の自動車が來たので彼は狐鼠々々こ夫に乘つて警察署に送られた釜山警察署の

◆留置場 に一夜を明した彼は五日午前十時再び第十四號自動車に乘せられて停車場に送られたプラットホームに於ける彼は附添ひの三警官並に釜山署の二巡査に護衛せられながら折柄そぼ降る秋雨の中の驛內や群頭をキョロ〱眺めて居た此處にも見物人は群々こ詰掛け大混雜を呈したが軈て彼は十時三十分列車に乘込んで出發した彼は果して何んな心持で居るであらうか(釜山特派)

### ▼憤然こして首垂れ 手錠で涙を拂ふ 京釜線車中の都野川 驛々は見物の群衆で大騷

二日夜以來京釜沿線各驛には北行直通列車の發着毎に恰も王者の駕を迎ふるが如き群衆を喚び出し[illegible]……人以上の人氣だこ云はれて居た繭商殺し犯人都野川義雄は五日朝の北行列車に乘り込み同夜九時十分南大門驛に著した記者は同列車が水原驛に著するを待て小松警部の一行を物色した後から三番目の

◆三等室の一隅 に眼光鋭い和服姿の三人が即ち犯人逮捕の任に當つた小松警部、佐々村、柵橋の兩刑事であつた。小松警部こ向ひ合ひ黑のソフト帽を目深に冠り高貴の給羽織を著け窓際の方に向つて首み俛れて居るのが犯人都野川であつた。彼は電燈の光りを背後に浴び默々こして俛れ時々手錠に纏められた

◆腕に涙を拭て 居るやうにも見えた。記者は先づ此の兇漢の慘たる姿に目を落し乍ら小松警部、佐々村、柵橋兩刑事に連日の勞苦に對する敬意を表し犯人逮捕の物語りをこ迫つたが『それだけは何卒許して貰ひたい此の通りすつかり草臥て居るから……』こ小松警部が云ふその顏は確に連日の勞苦に窶れが見ゆるが眼光が或欣びに燃て居る『明日は日曜だから

◆失敗談でも話 さうぢやないか』こ柵橋刑事は元氣が好い然しその眼は不眠不休の活動に血走つて居た。佐々村刑事は默々こして犯人こ並んで居たが用心深い眼が眼鏡の奧に働いて居る『被告は新聞記事を大變心配して居るよ』こ佐々村刑事が記者の肩を叩く、此の中に乘客が感づいたこ見えて多くの視線が此一行に集まり果ては乘り出して來て

◆周圍に集まる やうこなつた。二日の夜以來南大門驛、龍山驛等は宛然戰場のやうな騷ぎで見物人が蝟るので犯人到著の日時の新聞記事は差し控へて居たのにも拘らず水原驛を同列車が發するこ同時に一驛毎にプラットフォームや柵外に立つて居る人が多くなり中には態々乘車券を買つて乘り込み一室一室を覗き廻る熱心家が刻々に殖ゑ永登浦に著いた時分は

◆押潰しさうな 勢ひで雪崩れ込み御陰で記者も肩を押し揉まれたり足を踏まれたりした。茲からは永野警視が和服姿で鳥打帽の扮裝で乘り込み警戒の巡査、憲兵等も頻ねたので漸この事で見物を押し除け犯人の周圍は稍自由が利くやうになつた。何しろ斯んな風に多勢の人が車內に立つて居るので永登浦、龍山の兩驛のプラットフォームに待ち受けて居た見物は硝子越しに覗き込み『あれだ、あれが犯人だ!』こ大聲に叫び立て盲滅法に喧囂する聲が窓外に渦を卷いて居た。

### ▼『ソラ來た來た!!』 群衆潮の如く殺到 人の渦!鯨波の聲!!物凄い 程雜踏した南大門停車場

犯人都野川の京城到著は其筋にては秘密こなし新聞通信等にも發表せざりしにも拘らず群衆は依然こして三晩續けに南大門驛頭に押し寄せたり殊に當日の連中は午後九時十分著の列車なるに八時半頃より押し掛け時刻の迫るに從ひ驛前貨物出入特別口の前は人山を築きプラットフォーム內も日鮮男女の別なく

◆人渦を 卷いて今や〱こ待つ私服警官憲兵及び官服連中は氣をはずませて群衆の整理をなしつゝ待つ內列車は定刻より遲るゝ事二十五分九時三十五分汽笛を揚げてプラットフォームに進入するやスワこ許りに群集は動搖を始め警官は聲を嗄らして

◆必死に 制止せんこするも却々手に負へざる間に犯人は護送の小松警部、柵橋佐々村の兩刑事及び警戒の刑事憲兵警官等に擁せられ群衆中を突破して貨物置場に入るや豫て用意の自動車に押し込むが如く乘せられ直ちに本町警察署に向ひたるが根氣好く毎晩續いて待ほけを喰し群衆が犯人の面を見んこして怒濤の如く押し掛くる樣は實に物凄く其れを制止せんこする警官憲兵等も氣分の大に緊張せし事こて

◆殺氣立ち 場內は一時凄然たり幸ひに何等の障礙なく犯人は南大門驛を出たるが流石に廣き南大門通りも兩側は人間の屏風を立て連ねたる如く殆んご本町警察署に迄人間の生垣を續けたり本町警察署の門前も亦南大門驛前に於けるご同じく群衆にて埋まり騎馬巡査數騎辛くも制止しつゝありしが犯人の署內に入るも却々解散する模樣もなかりき兎に角騷ぎは殆ご京城未曾有の事なるべし

### ◇……見物樣々……◇

△繭商殺しの犯人都野川も愈々五日の夜京城に護送されて來た△犯人の京城に護送せられて來たのは不思議でも何でもないが驚いたのは

◆見物の群衆 である△最初都野川が南大門驛に到著するこ噂せられたのは去る三日の夜であつたが其夜から翌朝其から四日夜を連續的に數萬の群衆は本町警察署前こ南大門驛前に集合した△四日の朝なごは

◆降雨にも拘はらず押し寬けた者だが愈々影も形も見ねぬ

▲徐々待ちこがれた群衆は五日の夜も例の通り根氣好く押しよせたが又見ねぬ▲五日の夜は今夜こそこ云ふので押し寄せた人なつては

◆意地の樣に なつて來て見ねば何だか人並では無いらしい感でもする樣な有樣であつた▲或る所へ出入する者なごは態々釜山の知人に電報を打つて犯人が釜山へ到著したら知らせて呉れこ賴んだ相な▲或る者は

◆毎晩永登浦 迄用事もないのに出掛けた者もある此の勢ひだから堪らぬ▲相撲狂が大相撲の乘込でも待つて居る樣な鹽梅だつた▲昨五日夜南大門驛のプラットフォームで元氣な中年の爺が最う斯うなつたら意地でも見ねば承知が出來ない今晩は

◆決死の覺悟 だなんてメートルを揚げて居たのでも判るこ此の調子だから憲兵も巡査も亦大に緊張して來て居る▲犯人が降らうこ群衆はウヲーッこ押し寄せる巡査がコラ〱こ戻すこ云ふ混雜▲ヤアヤア云ふ

◆聲を嗄して 喚鳴る中を犯人は群に揉まれた[illegible]へぬ物凄さ▲犯人は小荷の樣に憲兵や巡査に中づりにせられて漸く自動車に押し込まれる▲斯う云ふ事で全く殺氣立つた面は

◆京城未曾有 の事であつた△マア之で警官も群衆も一安心したであらう

◇繭商殺しと見物

(上)南大門驛より本町署へ護送されんこする都野川(中央首垂れてる男)(下)犯人見物の群衆

## ◎白米騰る 一升卅九錢五厘 もう直に下る

三十九錢に下つた儘久しく保ち合つて居た京城の小賣白米は五日に至つて突然五厘方の値上げを行ひ三十九錢五厘になつた原因はこの間の風水害で飛上つた內地相場に釣られたからでもあるが主こして品薄のこの頃內地から頻に買註文が殺到する爲めだこ云ふ然しこの現象は餘り長くは續かず新穀の出廻りこ共に相場も自然平調に歸するであらうこの事

## ◎聽衆 醉へる如し 嘉納氏講演會の盛況

[illegible]嘉納治五郎氏の講演は五日午[illegible]に於て開催し[illegible]紹介に依りて嘉納氏は[illegible]先づ歐米巡遊中の見聞並に

◆失敗談 を語りて後世界の大戰に見ても最初は人種の競爭は一面に於て商工業の猛烈なる競爭を意味してゐる今回の歐洲の大戰に見ても最初は人種の爭ひから起つた樣だが英國が斯くも全力を擧げて獨逸こ戰ふのは單に人種の競爭にあらずして商工業の競爭に基因してゐる朝鮮は無論我日本こ同一人種であるが

◆支那も 同じである、そこで歐米各國こ爭ひを起さぬやうに先づ支那こ結合して大なる力を作る必要があるこ說きて演題たる『我國民活動の能率を增進する法』に移り氏一流の

◆能辯を 以て縱橫無盡に說き來り說き去り約一時間半の長講演を爲し聽衆に多大の感動を與へ六時十分閉會したるが聽衆は總督府側並に一般市民六百餘の多數に達し大盛會なりき

### ◎元山時代の 新農相 日郵の出張所長 交友は尠い

新農相山本達雄氏は去んぬる明治二十年鮮の山河秋の色添ゆんこする十月の頃日本郵船會社の一支店長兼出張所長こして元山に居た事がある尤も元山に居たのは半歲足らずであつたが當時氏は現在の朝鮮郵船會社出張所が日郵出張所である時其樓上に起居して居たのである、時の副領事は當時政友會の渡邊修氏であつた氏こは慶應義塾出身の故を以て相往來して居る外元山の人こしては當時の居留民總代であつた故澁谷忠太郎こ居留民會議員の大塚榮四郎の兩氏以外には何人も交際しなかつた相である氏の元山を去る時の如きは故澁谷、大塚の兩氏は今の佐藤信太郎氏宅が其當時八阪樓こ云つた料亭だつたので夜を徹して送別の盃を重ねたこ云ふ事である(元山)

### ◎慰問袋

今度南山本願寺內婦人法話會に於ては專ら會員の手に依り大形慰問袋六百個を調へ遠く西伯利の寒地に戰ふ我出征軍人に贈るここなりたるが既に大部分は集まり居れり目下發送準備中なりこ

### ◎蓬萊町の火事

五日午後九時四十分京城蓬萊町一丁目三十六番地弘德香方より出火し溫突一戶燒失し同十時鎭火せり原因は多分過失ならんこ

### ◎支那書展覽會

六日午後一時より市內南米倉町京城[illegible]りたい(長春にて)

### □金谷從軍記者 萬難を排し ブラゴエに入る

余(金谷從軍記者)は九月十七日、ハバロフスクを出發途中鐵橋破壞の險處を涉り萬難を排して二十四日ボチカレチ、アレキセーフスク着せり、二三日中には黑龍江を下り渡邊總督の一行こ共に(ブラゴエチエンスク發金谷記者)

### 從軍行

▽軍隊輸送の 糞詰り

西伯利の眞か原ぞ 前に、東清鐵道は 從軍記者 磐溪生

一時東清鐵道の混亂騷ぎで軍隊も軍需品も、一般貨物も、旅客も、殆ご詰りになつた長春に著いて見るこ停車場も、市中も、想像した程混亂しては居らない、聞く處に依るこ先月二十日頃完了する筈の軍隊輸送が同盟罷業のために

◆大頓挫を 來して〇〇旅團の一部は長春に止まり、〇〇旅團は奉天で、後が閊ねて居りますこ、焦つて居る始末、何れ輸送完了は本月の二十日頃になるだらうこの事であるが、僅々一個師團の輸送でさへ斯樣具合だこ、西伯利現地の形勢一變して、大兵を動かさねばならぬやうになつたら、一體什するのだらう皇軍の擲ふ處勢力範圍內の東清鐵道に拗ねられて、手がつけられぬやうでは將來が案ぜられる、西伯利の草を靡かす前に、お手元の鐵道を何こか色をつけて置かねばなるまい、あゝ鐵道なる哉!!鐵道なる哉!!鐵道さへ出來たなら、ベーリング海峽の海の底を潜る事さへ厭はぬ程に、鐵道好きの國がある今の世の中に我國の如く鐵道を見ても、涎を流さぬ國は

◆靡かぬ草 も無いが、

◆三千世界 にまたこあるまい、同盟罷業の裏面なんか詮議する要はないが、長春邊の人達は、妙に臭がりを言つて、神經を惱んでゐる、曰く、獨探が跳梁してゐる、曰く某國の鐵道隊員が三名ヤマトホテルに本陣を張り、夜でも、深夜でも、停車場に出張つて出征軍の輸送狀況を監視してゐる曰く過激派の煽動、曰く某方面の者か

◆本國政府 から送らるゝ金を撒いて人心を收攬してゐる曰く何、曰くの多いのにも拘らず鐵道從業員の經濟慾望を擧けないのは論據を薄弱ならしめてゐるが直接迷惑を蒙り、人の災難を見てゐるものこしては、ひがみも起らう、暗心は疑惑を塗まう、痛くない腹を探らるゝが嫌なら、妙に色氣や食氣を出さぬが宜いこ言つてや

### ◎善隣生徒旅行

京城善隣商業學校三年生廿五名は約八日間の日程を以て大連、旅順、撫順、奉天、本溪湖、安東、平壤等を見學すべく六日午前六時南大門發仁川より海路大連に向ふべしこ

[illegible]俱樂部に於て支那書籍展覽會を開催俱樂部員所藏書籍を持寄の觀覽に供すべく長谷川總督山縣政務總監等も參觀すべし


寫眞 寫眞出張撮影 寫眞版、亞鉛版 熟練なる技師を以て廉價に調製 丁寧懇切さして御用命を乞ふ 京日寫眞製版部

新學期 會員募集 事業主にも職工にも必讀の講義錄 講師 東京高等工業學校教官

機械講義 機械學、發動機、電氣、製圖其他機械工に必要の學科を懇切に講述す 鑛山製鐵造船鐵道等の從業者に適す

建築講義 和洋家屋構造、規矩法、建築製圖より材料及び構造強弱等建築の奧義を平易に說明せり 大工請負業者に必要也

電氣工學 遞信省主任技術者受驗科目を始め電氣に關する最新の研究を平易懇篤に網羅せり 電業家に必讀の參考書なり

應用化學 有機、無機、製造工業、分析化學、電氣化學・化學機械、工業簿記其他すべて時勢の要求に應じたる最新の講義也

希望の學科の 見本を見よ! 東京小石川表町(振替東京六一八〇) 大日本工業學會

債權請求申出催告
白石土地株式會社ハ大正七年九月二十七日解散シ目下清算中ニ付キ社ニ對シ債權ヲ有セラル各位ハ大正七年十二月七日迄ニ請求ノ申出有之度若シ右期間內ニ御申出無之節ハ其債權ハ清算ヨリ除斥セラルヘク候 右商法第四百十六條民法第七十九條ニ依リ公告候也
大正七年拾月五日
朝鮮忠淸南道天安郡成歡面成歡里
白石土地株式會社 清算事務所
白石土地株式會社清算人 大串平八
同 岩永喜一
同 草場又
同 野口
同 鶴田勇次郎

日本及歐米三十ヶ國專賣特許 胃腸最新藥 チスケゲン
食慾が進まない時に食慾を促す 元氣が衰へた時に活力を與ふ 貧血のものには血液を補給す 精力の增進こ體重の增加を促す 現今醫學大家は胃腸の諸疾患に本品を最も賞用せらる 說明書進呈 東京本町 藥種問屋 岡城商店

吸入瓦斯三十五馬力十二馬力十馬力八馬力あり 電氣モートル 淸水式無砂精米機 多數著荷 須藤式精麥機 アイデル式精米機 中古あり 福岡博多呉服町 九三商會

價十五錢 郵稅二錢 山縣五十雄村上唯吉共著 富の道しるべ 京城太平通 振替京城三〇二 京日代理部

洋鐵鋼材料 バルブ工具品類 鑛山用品 一般工業用品 瓦斯管 カナエパッキング會社代理店 京城南大門通一丁目 合資會社南方商店 電話長一六八九 一七五五 振替一九三四 商報御一報次第送呈

大悲劇 連日 滿員御禮 金色夜叉 期待以上の大好評 虛榮に憧かれ貫一を捨てしお宮も良心の苛責に耐へず遂に悔悟の淚こなつた…… 此れを見て泣く觀客の淚こは館內に溢れた 午後六時より開館 大正館

大藏醸造 酒 特約販賣店 仁川 河野本店 京城 同支店 同 向港徐商店 木浦 山口號本店 同 山本酒店 群山 山口號支店 同 長谷川商店 釜山 栫永商店 同 山邑支店 鎮南浦 吉富商店

最新刊 書名 著者 定價 送料
實用主義の哲學 [illegible] 三、八〇 一二
實驗教育學 [illegible] 二、〇〇 一八
各科の新研究 大塚 [illegible]
最新物理學詳解 永澤 一、〇〇 〇六
株式米綿投機掛引 井上 一、九五 〇八
フレテリキ 楠山 一、〇〇 一八
縮刷 辭林 金澤 二、三〇 一八
公民年鑑 帝國教育會 六、五〇 〇八
秘訣 自然養生法 小山 二、〇〇 〇八
◎ゲーリー式の學校 定價九十錢 特七十五錢 送料六錢
智能相關の研究 吉田 七五 〇六
青年修養 若手の個所 山本 一、二〇 〇四
作歌講義 不二會 一、二〇 〇六
和洋家屋構造圖解 [illegible] 二、〇〇 一二
東方經濟調查會編 戰後の事業 定價二、五〇 送料一二

京城本町 大阪屋號 電話六八四番 二〇八六番 振替京城二五七三番

京日案內 一回前金 [illegible] ▲申込中後通用 ▲六回以上の申込は特に [illegible] ▲御照會は返信附にあらざれば回答せず

事務員募集 能書の者 希望者は自筆の履歷書携帶來談あれ 京城南大門內 救世藥館

◎求貸家 二十圓より五十圓迄の住宅向貸家を求む (姓名 住所)

◎店員入用 廿才以上卅五才まで市內に確實なる保證人を要す 龍山元町二丁目 川本衣服店

◎各地方販賣部 主任招聘 毎戶に缺くべからざる國旗掛販賣主任採用 委細面談 照會返信料要す 黃金町三ノ二九一 實踐大道社

◎急募記方一名(多少素養ある者)諸通店員三名入用但年齡十七八歲以上にて市內に確實なる保證人ある者 希望者は書面商人、大門通三丁目 今村書舖通販賣部に來談あれ

毛皮なめし並仕立 烏獸剝製標本類 調製鳥類毛皮 羽毛剝製 貿易商 京城本町二丁目 電話長二〇六五番 樽元商行

恩給年金 低利長期即時立替 利息前拂なし 四年生命保險不要 ◇京城永樂町一 商品陳列館前角 江州屋本店

◎醫師一名招聘 京城府紫鋸部通り 七星堂醫院

高等御下宿 弊館は極めて閑靜にして親切丁寧を旨こす 西大門町中學前 電話二六二五番 優翠旅館

仁川米豆取引 五日の十一月限 [illegible]

# 妻の心　百十二

小林蹴月作　武内桂舟畫

十八の三

自暴と二人連れの久三郎は、年甲斐もなく、小供のやうな小龍を對手に、根岸の只ある待合で一夜を飲み徹した。倖、明くる日の天道樣は、昨日の如く東から昇つてかん〳〵と照り輝いたが、彼は一向にまだ歸らうとは爲ないのであつた。已みがたき社交上の用務は大抵電話で濟まして、前の酒の醒かかる間もなく、後の酒をつづけた。商賣とは云ふものの、氣の練れない年若の小龍は、もうお酌の役目も飽き果てて來らしい。

『ねえ、町川の旦那、一旦お歸りにならなくちやい、奧樣におわるう御座いますわ。』と、暗に歸宅を促して見たのである。

『はゝ、は、小龍お前は乃公の對手が厭になつたらしいな。お前、厭になつたら遠慮なく歸るが好いよ。』

『だつて、一緒に來ていて、貴郎お一人置き去りして行くのは猶更困りますもの。』

『そりや不可よ小龍、お前は抱へ主と云ふ立派な歸り所があるけれども、乃公にはそれがないんだ。本宅もなければ妾宅もないんだ。』

『ぢや、二年でも三年でも、此家に在つしやらうと云ふんですかい貴郎は……？』

小龍は、偉い人にも似合はないら淋しい事を云ふものだと思つて、怪訝の眼を睜りながら、久三郎の顏を眺めた。

『まあ、泣いてさへ呉れゝば二年でも三年でも、斯うして飲みつゞけて居たいもんだね。そして、飲み草臥れた揚句に、餅ぢやないが酒で殺されて了ふか、左もなけりやお前のやうな美しい相手を探して心中と出掛るんだね。』

無論戲談の話ではあるが、飲んでも飲んでも、昨日以來の久三郎の心には一種云ひがたい暗い淋しさの影が宿つてゐる事は、實際であつた。久三郎は、怎うしても平生のやうな浮いた活潑な氣分にはなり得ないのである。隨つて、小龍の歸りたがるものを強て遮り止むるほどの熱心もなかつた。

『とは云ふものゝ、小龍、お前用事でもあるなら、出直すとして一旦歸つても關はんよ。』と云つた。

『あら、それでは一旦お暇をしても關ひませんの？』

『來たくなつたら、又出直して來なさい。』

『濟みませんけど、然うして頂戴ね。』

小龍は、籠から放たれた小鳥のやうに、喜び勇んで久三郎の前を引退つた。

後は、云ふまでもなく久三郎の一人ぼつちであつた。待合の寢衣羅袍に、細い兵兒帶を絡み付けたなりの彼は、女中さへも呼ばずに獨りで例の猛烈なのビールとをちやんぽんに呷りながら、他から見たらば、全然時間に借りのないやうな恰好よろしくであつたが、併し、此の時の彼の良心ほど、寂寞の緊張を感じた事は、曾て無かつたのである。

‖辛當り、何う云ふ手段を取るのが、乃公として一番の良策であらう‖

久三郎の胸には、先づ先決問題として、此の一案が頭を擡げた。

‖表面には現はれて居ないが櫻井と禮子とは、乾度何等かの內約を結んで、その結果乃公に彼樣絕緣狀を送り付けたものに違ひないが、その點から推測を下すと櫻井と禮子とは既う疾くの昔から肉體上の不義を行つて居たのではあるまいか知らん。勿論それには櫻井の狡猾に魅せられきつて居る姑も同腹の上ではあらうが、若し果して然うであるとすれば、禮子の奴は、最初からもう自分と云ふ者に對して、虛僞の親切、虛僞の愛情、虛僞の貞淑を拂賣して居たものに違ひなからう。噫、虛僞の假面を被つた空涙の女奴‖

久三郎は、一も二もなく斯う推測を下した。推測は竟に斷定であつた。今と云ふ今になつて見ると、薄情で浮氣なお芳も憎いし、意地曲りで亂暴で陰謀に長けて居る岩龍の駒子も癪で癪で堪りかぬるのであるが、それ以上憎くて癪で、忌まくしくて憤慨に堪へがたい者は妻の禮子であると思つた。

あはれ、妻の反逆……その瞬、自分の一番嫌ひな妻の反逆が、何の爲めに竟に久三郎の腸を發わ返らせたのであらう。久三郎は、久三郎自身にも、その事の矛盾を承知しきつて居るにも拘はらず、未だ妻禮子の心情が何よりも彼よりも一番忌まくしくて堪らぬ。卑野な粗暴な極的な知慮な行爲とは知りつゝ、出來得べくんば、櫻井と禮子を重ねて置いて四つに爲てやりたいと思つたのである。彼は、禮子からの絕緣狀を取出して、何遍となく口の中で讀み返した。

## ◎結婚期が遲れる　統計上晚婚が增て居る

文明が進めば進む程いろ〳〵の弊害が起つて來ますが之には爲政者も一般社會の人々も餘程頭を惱ましてゐます

### ◇結婚期が遲くなる

のも爭はれぬ事實で西洋では結婚の準備即ち結婚費を作る爲めに一時男子も女子も獨身でゐるやうな事がある之が結婚の機會を逸すると長い間獨身で暮す人もあるので又一方教育や職業の點からも結婚期を遲らすやうな事實を發見するのです兎も角文明が進み

### ◇生存競爭が激しく

なれば激しくなる程結婚期が遲れる傾向が甚だしくなつて來ます日本でも確に此の傾向が認められるのでして先づ日本の男子の結婚と年齡の關係を調べて見ますと明治卅三年に廿歲以上廿五歲迄の男子が千人中卅七人・二八結婚したものが四十四年になると

### ◇卅一人・三三に減じ

てゐるし之に反して廿五歲以上卅歲迄の男子が同じ十二年間に廿八人・四一から卅三人・〇八に又卅歲以上卅五歲迄の男子が十二人・八〇から十五人・二六と云ふ風に增加してゐる女子の方は如何かと見ると同じ明治卅二年から四十四年までの十二年間に十五歲以上

### ◇廿歲迄の結婚婦人

が三十三人・六五から廿七人・七三に減じたのに反して廿歲以上廿五歲の女は四十一人・六七に進み更に廿五歲以上卅歲の女になると十四歲・一四から十六人・五八に增加してゐます男子も女子も年齡の若い處では結婚者數が減り稍年を取に從つて結婚者數が增加してゐるのです之れから先此の傾向が益々甚だしくなる事は想像に困難ではありません晚婚の生産數即ち子を產む事を少くする事は世界の通弊であつて民族の膨脹國民の發展上輕々しく見逃す事は出來ません

## 日報歌壇

◎九月山の秋　信川　湖北

西洋の奇異花咲き溢れてよし殘りてもよき眺め、只藥等の大廈間より行く秋多き魚の北心地や知る人のなき、何處より流れ來りて何處に行くや寛な滿つる水の音露か結ぶ夜氣に晒されて肌の冷たさか知る苦惱もあり

亡き人のくるてふ夜さて魂まつり月に蓮花の影のさびしき

深山里も祀のいほりはいづこさて秋の細道ふみわけて入る

くちし覓木の葉にうもれ虫のみ秋のいほりの淋しささそ知る

かりがねの空鳴きわたる秋、夜の夢にねざめの肌のつめたき

春川にて　西村秋芳子

重々たる山又山も眞開江の波よりいよ〳〵開けて參り候四ち春川近く一世、沿道の小山山稍にく打初めて京風冷やか、肌を洗うて過ぐる處、黃金の波を立て申候

○

すめ君の秋政の風に小山川のたり穂げおもく黃金波立つ

仁川　西村幸次郎

○

ふきす蛇、翅銀色にきらめきてさぶも寂しき秋晴れの野路

さら〳〵と楓木葉散れるかぜ庭に鶏鳴なあさる節けき朝よ

○北漢山に登る　夏野旅人

山脈の靜かに立てるその上に仮影稍に鳴く過ぎゆく

秋の日のあかく照らせる松蔭になく虫の音の侘しくも澄む

峯の上に吹き上げつまた吹き下す風はこゝろあはれんとする

かの島のはるかの空の雲の色に眠ゆるがごとく心は侘し

## 讀者の領分

▲京城の或る妓獨家に告ぐ、折ちに○○に來ながら嗚は打たないで折角丹誠の甘梅を失敬するなんて、あまり道樂が過ぎますよ。あれでも四十男の天晴れ、所謂紳士とやらだと思つて當方も見て見ぬ振りなして居ましたが然し其れに味を占めて又やると今度こそは絕對に容赦しませぬよ（京仁線○○驛農夫）▲從來施行せられたる判任見習試驗が今度內地に於ける普通文官試驗と同等以上の程度に於て行ばるる噂あり右事實なるや南北の官吏希望者の爲め當局の御啓示を乞ふ（準備生）▲何物も騰貴するばかり獨り騰貴せぬものは月俸ばかり此の方の騰貴は豫占でも駄目だ何とかならぬまいか（高等官十二級生）▲龍山の火藥力は貯藏と云ひ位置と云ひ別莊地には以て來いの處だのに人機場をこしらへたのは無風流の極だよ（革守の孫）▲京城近郊で秋色の一番好い處は何處かお承知の方はなきや（散策紳士）

## ◎巴爾幹の戰勢　土國討伐新作戰

て戰鬪を繼續せば國內は第二の露國たらんとする危殆に瀕せるより……フエルヂナンドは維納に逃れ皇太子輔て王位に登るべしと報ぜらる……も同方面の英軍は土國に對し第二段の作戰を開始するに至るべし……事情ありとするも海路サロニカより土國沿岸に輸送するは容易なる……なき情況の下に其欲する地點を自由に占領し得べし而して勃國が同……各方面より獨逸を攻擊し敵は其豫備隊の不足を感じつゝある際なる……く英軍は恐らく土國に殺到すべしと觀測せらるゝが羅國と雖も巴爾……に於ける聯合軍の此優勢なる形……確しとせば巴爾幹の戰勢は……に變し弱廉に陷るもの獨り接……ざるを奘へるか然らずんば相互に……隣居相通ずる企圖ならずやとも推……鬪力は土軍同樣殆んど戰線の活躍を望み難き程度に困憊せるを以て……現在墺軍の存否は獨軍戰鬪力に……

**黴毒淋病で當惑する人に**

帝國醫科大學特命製劑者たりし赤井先生の考案に成る藥化學應用療法は效力卓絕にして在來行はるゝ自宅療法と趣を異にし專ら使用の安全、簡易、經濟を主とせる最善良法なり

無代進呈　ハガキに必ず病名を記して照會あれば彩色圖入の詳細解說書非賣品を直に郵送進呈す

東京市本所向島小梅町一二三　東京藥化學研究所

**テンカン**　ヒキツケル病を自宅で秘密に治す事を人助けに無代で救命切手三錢封入申込あれ　名古屋市中區南小川町　救生館

**一番よくきくかぜねつ藥**　蛇印　**アンチピリン丸**

▲特長　◎最新高貴藥の配伍　◎絕對に副作用なし。◎胃中に溶解し易し。
▲主效　■感冒、ネツ　■インフルエンザ　■頭痛、齒痛　■リウマチス、オコリ
▲藥價　十錢、十五錢、廿五錢、五十錢
本舖 東京 大阪　丹平商會　賣捌は全國各藥店

京城の名物（京城南大門通三）カフエータイガーの洋食とすき燒

**新舊對照　朝鮮全道府郡面里洞名稱一覽**

司法大臣 松室致閣下題字　京城地方法院所屬辯護士法學士 加古貞太郎先生序文　舊韓國財政顧問附財務官 小笠原寬先生序文　法政大學校友 關西大學校友 越智唯七編纂

大正七年一月一日現在　正誤表附總クロース金文字入菊版千百五十頁定價金三圓郵稅十八錢　本書は府郡廢合の整理と既に結了したる土地調査局の調査により確定したる朝鮮全道の行政區域の新舊を對照し錯綜混雜せる沿革を明にしたるもの一目瞭然にして道、府、郡、島廳及面事務所の所在地を示し、末尾に朝鮮の沿革、日鮮清、西歷の詳細なる對照年號を示し管區數、人口戶數、道路里數、各道の廣袤交通、產物名稱舊跡溫泉其他の概況を揭げ　本書は官廳執務上を初め政治家實業家學者交通產業其他苟も朝鮮に關係を有し朝鮮に精通せむとする士の須臾も缺く可らざる必携書也

京城大平通一丁目　振替口座三〇〇番　京城日報社代理部

資本金六百萬圓　株式會社十八銀行京城支店　同　龍山出張所（龍山元町二丁目電話一八番）

弊行ハ各樞要ノ地ニ爲替取引店有之諸預金貸付其他送金荷爲替代金取立等銀行一般ノ業務ハ精々御便利ニ取扱可申候間多少ニ拘ラズ御取引願上候　◎右ノ外株式會社長崎貯蓄銀行ノ代理事務取扱申候

**大日本優等清酒**　ハクツル

品質純良　衛生無害
攝津灘御影町　釀造元　嘉納合名會社
京城本町二丁目廿番地　發賣元　前田酒店　電話一三七番　振替口座四二五番

內科　小兒科　入院隨意　チアテルミー科　**中島醫院**　京城府明治町二丁目（本町江戶川横すり入る）電話三七八番　院主　中島貞信